

令和元年度 事業報告書 （ 昭徳会 ）

1. 「基本理念」「基本方針」「職員行動指針」の実践

- (1) 「職員行動指針」を、施設長会議をはじめとした諸会議や研修等、様々な機会を通じて法人全体の周知に向けて取り組んできた。
- (2) 「職員行動指針」は、人間力や人間としての基本的な資質を磨く上で大切な指針である。毎月のキヤンペーン（唱和・毎月一条の周知）の実施を通じて、職員の資質向上に取り組んでいる。

2. 内部管理体制基本方針の実践と内部管理体制の確立

- (1) 理事会終了後の理事長と監事による「理事長懇談会」を定例開催し、内部管理体制基本方針の確認や法人監査室から内部監査の報告を受け、法人全体の状況を共有化してきた。
- (2) 会計監査人監査並びに法人監査室監査を実施し、リスク管理やコンプライアンス等の徹底と浸透に取り組んできた。
- (3) 法人監査室による内部監査を、基本業務、施設運営、リスク管理等を中心に実施し、内部管理体制の強化を図ってきた。監査の内容は以下のとおりである。
 - 書類等による確認：有給休暇取得状況の確認、平成30年度内部監査指示事項の確認。
 - 職員面談：事前に監査員がG L 1名、職員（経験3年程度）2名を指名する。
 - 事前提出書類：「法人監査室監査基本業務チェックリスト」
 - 「令和元年度施設運営自主チェック表（経理管理）」
 - 「業務管理体制整備状況確認のための点検表」
 - 「令和元年度施設運営自主チェック表（ハラスマント）」

3. 地域における公益的な取り組みの推進

- (1) 社会貢献事業推進室の諸事業の提起に基づき、ボランティア活動を推進していくためにCSR活動（企業の社会的責任）に取り組んでいる民間企業から学び、SDGs（持続可能な開発目標）の重要性を理解した。昭徳会としてもSDGsを強く意識しながら、活動名を「ハチドリチャレンジ」と名付けて取り組んできた。また、各施設においては「ハチドリチャレンジ」推進に向けて、窓口スタッフとなる推進委員を配置した。ために引き続き努力していく。
- (2) 「地域共生社会」に向けた取り組みの具体化に向けて、先進的な法人施設を見学し昭徳会における「地域共生社会」のあり方を学んだ。
 - 社会福祉法人 佛子園視察研修
 - ・「輪島KABULET」「日本海クラブ」を視察
 - ・視察日：令和元年9月2・3日 参加者：25名
- (3) SDGsに対する理解を深めていく目的で、「2030 SDGsゲーム」の体験研修を実施した。
 - 開催日：令和2年2月12日（水）14:30～17:00 法音寺会議室 24名参加
 - 開催日：令和2年2月18日（火）14:30～17:00 法音寺会議室 17名参加
 - 講 師：中村範親社会貢献事業推進室長（高浜安立莊莊長、2030 SDGSカードゲームファシリテーター資格取得者）

4. 中期経営政策第二期政策の策定

- (1) 第二期経営政策の柱を「分野における事業構想の確立と社会貢献事業の推進～事業構想を推進できる資金確保と福祉ニーズに反映した社会貢献事業の推進～」として、中期経営政策策定プロジェクトを6回開催し、第二期経営政策を策定した。
- (2) 児童養護施設における「名古屋市社会的養育推進計画」を踏まえ、法人として三つの児童養護施設の政策検討が必要なことから、中期経営政策第二期政策を3月理事会に報告した。
- (3) 法人組織体制については、当面、「法人監査室」「経営企画室」「社会貢献事業推進室」「広報戦略室」の4室体制を維持することとした。

5. 財務基盤の強化と資金確保の計画的実施

- (1) 当面、施設設備の維持管理を計画的にすすめる。その場合、耐用年数を超えても施設設備の維持管理ができるよう、保全計画を策定し、必要な資金の確保に努める。
- (2) 「事業経営・事業継続資金」については、今年度十分な検討を重ね、令和2年度から計画的に資金確保できるよう検討する。
- (3) 第2回施設長会議において、「施設の事業継続に向けた施設設備等の維持管理について」を報告。当面、5年から10年スパンで保全計画を策定することを確認する。
- (4) 経営企画室事業計画に基づく研修を開催

○講 師：谷田和也経営企画室長（小原安立施設長）

事業計画	会議・研修名	開催日	時間
(1) 昭徳会の現状と課題について	施設長会議	11月11日	90分
	次長課長会議	10月15日	60分
	事務担当者研修	10月25日	60分
(2) 決算状況の一覧表の周知 ※次課長以上は、他研修時に周知	G L研修	9月4日	20分
		9月13日	20分
(3) 減価償却の自己金融機能について	次長課長会議	3月2日(延期)	60分
	事務担当者研修	10月25日	60分
(4) 収支改善プラン	事務担当者研修	11月19日	120分
		12月18日	120分

6. 福祉人としての資質・人間力を磨く

- (1) 働き方改革委員会が中心に働き方改革に向けた検討に着手し、安心して長期に働く法人を目指し、職員募集力の向上を図ってきた。
- (2) これからの法人を担う幹部を育成していくために、次長課長会議5中3を「中堅幹部養成塾」として開催した。また、G L58名から13名を選抜し「幹部候補者研修」として育成に努めてきた。
- (3) 人事制度推進部会で就業規則の抜本的な改訂検討に着手し1月初旬に取りまとめ、新しい就業規則（案）を全施設長に配布し意見聴取中である。今後は全職員に配布して意見を求め、夏頃までに必要な修正を重ね、最終的に社会保険労務士のチェックを得た後、理事会の承認を得て施行する。

7. 安定した人材確保と年度離職率8%未満の達成

- (1) 広報戦略室の二期政策課題として、昭徳会通信の新たな活用方法、時代に即した求人広報の強化、広報戦略の計画立案の策定が提起され、人材確保の安定化に向けた取り組みが展開してきた。
- (2) 外国人雇用については、「外国人確保対策プロジェクト」を設置し、外国人雇用の安定化に向けて検討を開始した。現在、高浜安立荘にベトナム人4名、そして、インドネシア人2名（高浜安立荘ディサービス1名、ケアハウス高浜安立1名）の雇用ができている。8月には小原安立、安立荘にあらたにインドネシア人6名の雇用が予定されている。今後、法人全体として外国人雇用は最大30名程度が予想され、引き続き必要な検討と事務体制の整備を急ぐ必要がある。
- (3) 職員採用が厳しい中、人事部の努力によって新卒採用者37名、中途採用者24名を確保したことは大きな成果である。今年度退職者数は47名（10.4%）となった。離職率防止に向けて、「いきいきとした職場づくり」を推進する中で、離職率8%未満をめざす。

○平成30年度41名（9.2%） ○令和元年度50名（11.1%）

※全国平均離職率 15～17%

8. 大規模災害に備えた危機管理体制の確立

- (1) 法人防災訓練を10月21日に実施し、事務局長のスマホから施設長ラインで状況確認を行い、被害状況や安否確認等、各施設の全体状況を把握することができた。
- (2) 災害対策検討プロジェクトが中心となって、「法人全体の防災・減災意識を高める研修」（日本福祉大学山本先生）を企画開催した。研修は全4回で構成され、職員の防災・減災意識が高まった。
- (3) 災害対策検討プロジェクトのメンバー全員が「防災士」の資格を取得し、「昭徳会防災士会」を立ち上げた。防災士の資格取得者は法人全体で7名。今後、各施設で1名以上の防災士資格者を目指し、

防災・減災意識の向上を図る。

9. 施設改修工事

令和元年度において、全体で46件、総額174,382,260円の施設設備における改修費を支出した。

○保育園関係	6件	31,734,000円
○児童養護施設	6件	13,607,800円
○障がい者施設関係	8件	46,071,440円
○高齢者施設関係	26件	82,969,020円

10. 職員研修の実施状況

- (1) 平成29年度採用職員研修 ○6月28日(22名)、10月25日(27名)、2月28日(25名)
- (2) 平成30年度採用職員研修 ○5月24日(43名)、10月18日(40名)、1月25日(38名)
- (3) 令和元年度採用職員研修 ○3月26日～28日(27名)、9月20日(33名)、12月13日(30名)
- (4) 基礎研修(令和元年度採用) ○3月23日(4名)
- (5) 中途採用者研修 ○10月4日(8名)
- (6) 専門研修(全職員対象)
 - ①「虐待防止～グレーディングを考える～」 ○5月10日(23名)
 - ②「実践研究の進め方と発表の基本」 ○6月24日(15名)
 - ③「クレーム対応について」 ○7月12日(10名)
 - ④「ノーリフト入門」 ○8月9日(23名)
- (7) 事務力向上研修会 ○10月25日(32名)、11月19日(25名)、12月18日(26名)
1月10日(32名)、2月17日(27名)、3月25日(資料送付)
- (8) 新任グループリーダー評価者研修 ○6月8日(4名)
- (9) グループリーダー研修 ○9月4日(20名)・13日(35名)
- (10) 幹部候補者研修 ○7月2日(13名)、9月12日(13名)、11月6日(13名)
1月22日(13名)
- (11) 評価者訓練研修 ○1月14日(30名)・15日(27名)
- (12) 次長・課長研修 ○6月10日(23名)、8月19日(23名)、10月15日(24名)、
12月9日(22名)、3月2日(24名)
- (13) 施設長研修 ○9月9日(19名)、11月11日(17名)、1月8日(19名)
- (14) 施設長会議視察 ○9月2～3日(25名)<社会福祉法人佛子園視察研修>
(輪島KABULET、日本海俱楽部)
- (15) 法人全体の防災・減災意識を高める研修 ○6月12日(47名)、8月6日(35名)、8月23日(38名)、1月20日(42名)

11. 福祉実践発表会の開催

- (1) 日時 令和2年2月22日(土)
- (2) 場所 法音寺開山堂
- (3) 参加者 138名

12. 福祉セミナーの開催

- (1) 日時 令和元年6月22日(土)
- (2) 場所 法音寺開山堂
- (3) 参加者 366名

13. 職員の状況

- (1) 令和2年4月1日の職員数 816名(正職員466名、パート職員等350名)
- (2) 採用職員数 61名(新卒37名、中途採用24名)
- (3) 退職職員数 47名(離職率10.4%)

令和元年度 事業報告書（駒方保育園）

1. 事業計画の達成状況

（1）子どもが主体となって楽しい園生活が送れるよう、保育内容を充実させる

子どもの発達過程に合わせて作成した全体的な計画を基本とし、年間カリキュラム、月案、週案等の指導計画に沿って発達と成長に合わせ、また、子どもひとり一人の個性を認めながら日々の保育を計画的に進めることができた。職員間の連携を密にしながら、保育園の集団で、乳幼児期にしか経験できない活動を大切にし、子どもが主体となって生き生きと保育園生活が楽しく過ごせるよう、日々の保育を大切に進めながら、年間の行事も計画通りに行なうことができ、保育内容の充実を図ることもできた。

（2）保護者支援と、開かれた保育園づくりを目指す

毎日の送迎時にその日の保育報告や保護者との情報交換を通じて信頼関係を深め、保護者と共に子どもの成長を喜び合える関係づくりに努めることができた。各家庭や保護者一人一人の状況を踏まえながら、子育てや子どもの発達の悩みも理解し、楽しく子育てができるよう保護者のよきパートナーとして保育園全体で支援に努めた。発達が気になる子どもに対しては、全職員、各関係機関と連携を取りながら、保護者支援も含めてその子に応じた保育も進めることができた。

保護者に保育の様子を見たり体験する機会を設けたり、園の行事参加や手伝いなどを通じて、保育園での取り組みを理解していただけるよう工夫して開かれた保育園づくりにも努めた。

（3）子育て支援事業を通じて地域に信頼される保育園を目指す

未就園児とその保護者を対象とした月1回開催の子育て支援事業は、保育の専門性を活かした、手作りおもちゃ作り、遊びの紹介など月ごとに変わるプログラムが好評で、毎月多くの親子に参加していただいた。ゆっくり安心して遊ばせることのできる園庭開放も喜ばれ、子育ての不安や悩みを気軽に相談できる育児相談も行ない、今年度は保健センターと連携をとり、親子防災についてのプログラムも新たに取り入れ内容を充実させ、子育て家庭を支える環境づくりに努めることもでき、地域に信頼される保育園として機能できたと思う。

（4）安心・安全な環境整備に努める。

日々の園児見守りは、職員間の声かけや情報の共有の徹底を図りながら、危機管理に対する全職員の意識を高めて、事故防止に取り組むことができた。

毎月の避難訓練では、午睡中、水遊び中、夕刻保育など様々な設定での訓練を行い、園児への安全教育も取り入れて、地震、火事に対する防災活動に力をいれ、園児の安心・安全な環境作りに努めた。

（5）職員の専門性向上と働きやすい環境作りに努める。

内部研修は、地震体験、救急救命、3保育園合同研修等、計画的に進めることができた。また、外部研修には、職種や経験年数に合わせて年間計画に沿って参加し、研修後も職員会議で研修報告会を実施して職員全体で情報を共有し専門性向上に努めていった。

職員の事務時間の確保をし、業務の効率化と時間外勤務の削減を目指して働きやすい環境づくりを整えることができた。

2. 一般保育年齢別月初め在籍児数

(単位:人)
定員 120名

年齢 月	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
4月	11	18	18	24	26	25	122
5月	11	18	18	24	25	24	120
6月	11	18	18	24	25	24	120
7月	11	18	18	24	25	24	120
8月	11	18	18	24	25	24	120
9月	11	18	18	24	25	24	120
10月	11	18	18	24	25	24	120
11月	11	18	18	24	25	24	120
12月	11	18	18	24	25	24	120
1月	11	18	18	24	25	24	120
2月	11	18	18	24	25	24	120
3月	11	18	18	24	26	25	122
合計	132	216	216	288	302	290	1,444

3. 特別保育月別利用実績

・一時保育

月	非定型	緊急	リフレッシュ	合計
4月	85	0	14	99
5月	102	0	14	116
6月	102	0	10	112
7月	99	7	18	124
8月	80	12	7	99
9月	92	2	11	105
10月	106	0	13	119
11月	105	10	13	128
12月	85	2	11	98
1月	88	0	40	128
2月	83	0	53	136
3月	56	0	49	129
合計	1083	33	253	1,369

・延長保育

月	利用延数
4月	117
5月	96
6月	144
7月	120
8月	76
9月	126
10月	136
11月	117
12月	124
1月	132
2月	118
3月	118
合計	1,424

4. 子育て支援事業

- ① 名称 こまがた遊ぼうかい
- ② 対象者 家で子育て中の母親等と0歳児から3歳児までの乳幼児
- ③ 実施日 毎月1回 午前10時から午前11時まで
- ④ 担当者 保育士
- ⑤ 活動実績

実施日	参加人数	内 容
5月30日	12	園庭遊び
6月14日	20	七夕せいさく
7月19日	18	室内あそび
9月5日	15	防災についての話
9月19日	18	給食の試食会、相談会
11月8日	20	園庭あそび
12月5日	22	クリスマス会
1月17日	20	鬼のお面づくり
2月6日	21	ひな飾りづくり

世代間交流事業

事業名	実施日	事業概要	参加人数 (高齢者)
運動会招待	10月13日	運動会に園児の祖父母や、地域の高齢者を招待し、競技に参加・観覧して園児との交流を深める	40名
ふれ合いの日	11月1日	園児の祖父母を保育園に招待し、遊びや歌で交流を深める。	70名
高齢者サロン交流	2月12日	地域の高齢者サロンに参加する高齢者と園児が手遊びやふれあい遊びで交流を深める	15名

5. 施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	駒方保育園分園整備	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	名古屋市待機児童対策における賃貸物件を活用した保育所分園整備を行なった。	
3. 修繕工事費	27,830,000円	
4. 完了年月日	令和2年3月17日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	(有り) 無し	(1)補助・補助団体名 :名古屋市 (2)補助・助成金額 : 17,400,000

物品 NO	1
-------	---

1. 物品の名称	軽自動車の購入	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	駒方保育園分園への昼食ならびにおやつ運搬のため、軽自動車を購入した。	
3. 購入金額	850,000円	
4. 購入年月日	令和2年3月9日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	(有り) 無し	(1)補助・助成団体名 (2)補助・助成金額

令和元年度 事業報告書（光徳保育園）

1. 事業計画の達成状況

(1) 心と身体の豊かな発達の促進と、主体性を尊重した保育展開

一人ひとりの個性や発達に寄り添い、子どもの主体性と人権の尊重を重点課題として取り組んできた。非常勤職員も含めて、全職員で子どもの人権について学び、共通理解のもとで子どもとの関わりを大切にしてきた。保育の内容についても、従来的な一斉保育の展開ではなく、子どもたち自身が考え、「やりたい、やってみたい」という気持ちを受け止めながら活動につながる保育展開を進めてきた。今後は保育の専門性をそれぞれが高め、遊びを通して子どもが育っていくことを可視化し、保護者や地域発信する取り組みのさらなる充実に取り組んでいきたいと考えている。

給食の提供と食育の取り組みについては、栄養士が年度途中に正規職員から非常勤職員へと転換したことから、年度後半は食育の取り組みが不十分となってしまったため、次年度の課題としたい。

(2) 様々な家庭環境の状況に配慮した保護者支援

日々の子どもたちの成長や、園内の活動についてきめ細やかに保護者に伝え、信頼関係の構築に努めてきた。年度末のアンケートでも、園に対する大きな苦情はなく、保育園の運営や保育方針に共感してもらえる意見や励ましの言葉をいただき、概ね家庭と良好な関係が築けていると感じている。

インターネットやSNSが普及し、育児に関する情報が溢れる中で、情報過多から、育児不安を抱える保護者も多く、育児相談や保育士とゆっくりと話し合える機会等を充実させ、育児不安の解消に努めてきた。また、子育ての楽しさを感じてもらえる機会として、若手の職員が中心となって、新たな親子行事を企画、開催し多くの親子に参加してもらい喜んでいただくとともに、職員にも良い経験となった。光徳保育園はきめ細やかな保護者支援が特徴的な取り組みであり、評価されている点でもあるため、大切にしていきたいと考えている。

(3) 発達と安全を考慮した保育環境の整備

環境保育を重点的に進め、各年齢の保育室の玩具、絵本、活動導線を見直し、子どもの遊びが循環、発展していく整備を進めた。安全保育を心がけながらも、子どもたちがのびのび遊び、自分で選び考えて、遊びが発展する保育へつながった。保育備品も劣化のため破損も出てきており、園児が擦り傷等のケガをすることもあったため、安全点検と修繕対応を心がけ、長く備品が使用できるよう心がけたい。職員も子どもと関わる大切な人的環境の一つと捉え、丁寧な言葉かけや対応を心がけ一人ひとりを大切に関わってきた。安全保育の一環として、防災について様々な想定の避難訓練を行い、職員の防災意識の向上につなげてきた。防災備蓄についても、補助金を活用し少しづつ備蓄品を増やしているところにあるので、今後も計画的に進めていきたい。

(4) 地域に根差した保育運営

地域の未就園児を対象とした、保育園開放や遊びの会を定期的に開催し、多くの方に参加していただくことができた。卒園児や他園に通っている子どもたちや、光徳保育園に入所が叶わず、他園に在園しているお子さんも、継続して訪ねてくださり、育児相談や保護者の方同士も気軽に話しあえる、コミュニティーの場所として新たな役割を果たしている。今年度は地域への虐待予防の啓発と子育て不安の解消を目的として、「地域子育て支援セミナー」を中堅職員が中心となって企画、開催することができた。その中で、光徳保育園の地域支援の活動も紹介し、保育園は福祉施設であり、地域内の子育て支援の役割も担っていることを伝える機会となった。職員も、地域支援の意識は強く持っております、光徳保育園の地域に支持される要因となっているので、継続して取り組んでいきたい。

(5) 職員の資質向上といきいきとした職場環境

今年度は職員との関係を再構築し、チーム力を高めることと、様々な業務に対して、楽しさを感じながら、働きやすい職場風土の構築を重点課題として取り組んできた。主任保育士や、グループリー

ダーの部下に与える影響を再認識し、丁寧に一人ひとりに向き合い、職員を大切にするという取り組みをおこなった。職場の雰囲気も温かく、職員の協力する風土が少しづつ整って来ていると感じている。

保育園は、女性が中心となる職場であるため、それぞれの生活環境の変化を柔軟にうけとめ、職員間で互いに支え合い、長く仕事が続けられる環境を整えていきたい。

職員の資質向上という点において、恒例となっている、駒方保育園、天王保育園との3園合同研修会を「すべての子どもの心と成長にきめ細やかに寄り添う保育」をテーマに、香川大学、松井剛太先生を招き、研修会を開催した。また、3保育園の職員が他園に出かけ、他園の取り組みを学ぶ交流研修会を開催した。自園との取り組みの違いや、保育内容の参考等、それぞれの学びにつながった。

施設内研修として、「子どもの人権」をテーマとして、全職員が参加しての研修会を開催した。

リーダーは連続研修や、専門研修を受講し、それぞれが専門性や人材育成について学ぶ機会となつた。人材育成は重点的な課題と考え、計画的に取り組んでいきたいと考えている。

2. 年間利用者数

(定員 80)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0歳	3	3	3	5	5	5	5	5	5	6	6	7	58
1歳	10	13	14	14	14	14	14	14	15	15	15	16	168
2歳	14	16	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	176
3歳	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
4歳	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16	198
5歳	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
合計	72	77	76	78	78	78	78	78	79	80	80	82	936

3. 一時特定保育利用者数

(定員 10)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0歳	3	4	7	7	3	2	3	5	11	14	20	19	98
1歳	20	21	28	27	22	33	24	46	55	56	70	53	455
2歳	44	66	73	81	67	54	55	59	50	56	44	32	681
幼児	14	12	0	2	0	0	0	0	0	20	0	16	64
合計	81	103	108	117	92	89	82	110	116	146	134	120	1298

4. 延長・長時間保育承諾者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
早朝保育	692	741	719	852	681	718	737	713	643	688	615	759	8558
延長保育	934	938	1007	1142	945	877	1011	1029	1033	1030	937	1104	11987

令和元年度 事業報告書 (天王保育園)

1 事業計画の達成状況

(1) 特色あるいはいきとした保育の展開と天王保育園の伝統作り

- ① 伝統ある保育を作っていく為、他園と自園との違いや大切にしたい保育などを見つけていけるよう、駒方保育園、光徳保育園だけでなく、みよし市内の私立保育園にもお願ひし、職員研修として実習を行った。研修報告書の様式を作成し、質問事項等を入れることで、意識して研修に臨めるようにした。自園の良さや他園の取り組みを理解し、学んだことや参考になったことを積極的に保育に取り入れることができた。特に、環境設定の見直しや遊びの充実など、各クラス工夫が見られた。
- ② ホームページ更新内容を今までのものと変更し、子どもの普段の様子をお知らせした。また、「にじいろダイアリー（ブログ）」を9月に開設し、小さな子どもの声や気付きに目を向け、子どもの成長や関りの楽しさなどを伝えられるようにし、保護者からも良い反響を得ている。月に5回から10回は更新を行った。2月に入り、新型コロナウィルスの対応で、更新ができなくなっているが、今後も積極的に保育の意味や子どもの育ちの中で大切にすべきことなどを発信し、保護者・地域の方が子育てを楽しいと思えるようにしていきたい。

(2) 業務改善と事務力向上

- ① 昨年同様、職員一人ひとりの日々の業務把握のため、6月から9月中旬までの2か月半記録を取り、昨年と比較した。一つひとつの業務に掛かる時間や、改善されている点などを洗い出し、データにまとめ、G.L.から個々にアドバイスを行い、一緒に改善できるよう話し合い、どのように取り組むと改善に繋がるかを考え、実行に移した。また、全体的に時間のかかっていることについて、職員から聞き取り、課長・G.L.を中心に書式・取り組みの見直しを行い、改善した。
- ② 無償化に伴っての変更点が多いため、こまめに職員へ周知している。決まったことについて、書面を作成し、全職員が保護者対応にあたれるようにした。
- ③ グループ会議以外にも、クラス会議等を新たに設け、月案・個別案作成の時間短縮に繋げている。時間のかかる部分は、出席者も参加し、改善点や問題点を確認し、サポートにあたった。昨年と比べ、多少ではあるが時間の短縮はできている。しかし、大きな差はみられないため、今後も改善に力を入れていく。

(3) 危機管理意識の向上

- ① 日々の建物内外の安全点検の徹底と迅速な修理を行い、事故の予防に心掛けている。今年度は、10月までに遊具マットの交換とプール日よけ設置など行った。また、小さな修繕箇所もすぐに対応し、大きな修繕に繋がらないようにした。その他、プールのリフレッシュ工事を計画していたが、新型コロナウィルスの影響でできなかつたため、来年度行う予定である。
- ② 株式会社「フォックスブルー」に依頼し、防災の徹底的な見直しを行っている。防災意識を高める研修、マニュアルの見直し、サバイバルカードの作成などを行い、防災の強化を行った。必要な防災グッズの洗い出しを行い、あらゆる場面においても対応できるよう、必要備品を購入した。また、保管場所の再検討を行い、建物倒壊の無い外倉庫などに備品を移した。今後も隨時見直しを行い、いざというときに対応できるようにしていく。
- ③ 子ども達に対しても、安全意識の向上を図るため、安全マークを作成し、園内の安全な場所を知らせ、震災が起きた際は、そこに集まる訓練を徹底して行った。サイレンが鳴ると、そこに集まる習慣が身についてきている。

(4) 園全体の質の向上に努める

- ① 外部研修、みよし市研修、法人研修などに、積極的に参加し、資質向上につなげている。また、3年目以上の職員が、それぞれテーマを決め、パワーポイントを作成し、講師役となって園内研修を行った。自分で勉強し知識を深める、パワーポイントを作成する、人前で話すなど、講師となる経験を通して身に付けていけるようにした。

- ② 6月に法人3保育園合同研修会を実施し、香川大学松井剛太先生より「主体的な保育」について学んだ。交流研修も年間を通して行っている。
- ③ 社会貢献事業推進室の提案による「ハチドリチャレンジ」について、地域貢献の一環として取り組んだが、今後は自宅の地域や施設の地域で行っていけるようにしたい。

2. 利用状況報告書

(1) 一般保育年齢月初め在籍児数 (単位:名) (定員 160名)

月	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	充足率
4月	3	12	20	39	40	37	151	94.4%
5月	3	12	20	39	41	37	152	95.0%
6月	4	12	21	39	41	37	154	96.3%
7月	4	12	21	39	41	37	154	96.3%
8月	4	12	21	39	41	37	154	96.3%
9月	5	12	22	39	41	37	156	97.5%
10月	6	12	22	39	41	37	157	98.1%
11月	6	12	22	38	42	37	157	98.1%
12月	6	12	22	38	42	37	157	98.1%
1月	6	12	21	38	42	37	156	97.5%
2月	6	12	21	39	41	37	156	97.5%
3月	6	12	21	38	41	37	155	96.9%
合計	59	144	254	464	494	444	1859	99.3%

(2) 特別保育事業月別利用実績

ア 一時的保育事業

単位:名 (定員 1日:10名)

月	非定型		緊急		リフレッシュ		合計
	3歳未満	3歳以上	3歳未満	3歳以上	3歳未満	3歳以上	
4月	56	0	0	0	2	0	58
5月	66	0	9	0	2	0	77
6月	79	0	3	0	2	0	84
7月	69	0	12	0	3	0	84
8月	64	0	2	0	2	0	68
9月	79	0	8	0	3	0	90
10月	92	0	0	0	7	0	99
11月	76	0	32	0	2	0	110
12月	63	0	0	0	5	0	68
1月	74	0	14	0	6	0	94
2月	73	0	13	0	1	0	87
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	791	0	93	0	35	0	919

イ 延長保育

単位:名

月	定期延長保育			特別延長保育		
	16:01～ 17:00	17:01～ 18:00	18:01～ 19:00	19:01～ 20:00	20:01～ 21:00	21:01～ 22:00
4月	18	28	5	13	0	0
5月	63	15	0	13	0	0
6月	45	20	0	9	0	0
7月	25	33	0	18	0	0
8月	27	19	4	21	0	0
9月	28	4	6	33	0	0
10月	94	10	24	34	0	0
11月	109	10	24	35	0	0
12月	109	3	28	33	0	0
1月	107	27	12	36	0	0
2月	90	4	0	41	0	0
3月	59	1	0	42	0	0
合計	774	174	103	328	0	0

ウ 休日保育事業

単位:名 (定員 1日:20名)

月	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
4月	3	3	1	5	8	13	33
5月	0	12	6	16	12	24	70
6月	5	5	0	5	9	13	37
7月	4	4	6	8	12	12	46
8月	4	4	1	5	8	9	31
9月	5	8	5	9	17	19	63
10月	4	4	3	9	7	14	41
11月	6	7	4	7	10	16	50
12月	4	6	0	4	6	12	32
1月	4	7	3	7	12	14	47
2月	7	10	4	9	13	14	57
3月	5	10	0	6	10	16	47
合計	51	80	33	90	124	176	554

3. 施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	三連鉄棒・雲梯・ゴムチップマット修繕	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	<p>落下時のけが防止のため、ゴムチップマットを設置しているが、経年劣化により角部分が反り返り、園児が転倒して怪我をすることが危惧された。</p> <p>園児が安心して遊ぶことができるよう、既存のゴムチップマットを撤去し、新たに施工した。</p>	
3. 修繕工事費	863, 460円	
4. 完了年月日	令和1年5月28日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

物品 NO	1
-------	---

1. 物品の名称	可動式プール日除け	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	<p>7月から8月にかけてプール遊びを行っているが、猛暑が続き、プールサイドでは40°Cを超えることが頻繁である。冷たいはずの水が温まり、水深に注意しながら水を足すなど温度管理対策をとっているが、鼻血を出す園児がいたり、保育士も炎天下で保育をしており、命の危険を感じている。これらの問題を解決するため、女性職員への体力的負担の少ない可動式タイプで、安全面を考慮し鉄筋コンクリート製の日除けを配置した。</p>	
3. 購入金額	1, 050, 000円	
4. 購入年月日	令和1年6月28日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(1)補助・助成団体名 (2)補助・助成金額

令和元年度 事業報告書（駒方寮・ドミトリ一駒方）

1. 子ども達の安心安全な生活の保障

- (1) 前年度、助言者であるパートナーを交えGLと取り組んだリーダー会議を毎月継続開催。人材育成機能を持たせ、内部研修では新人研修（4月）・CSP研修（6,7月）・子どもへの権利ノートの説明（8月）・「愛着」の講義（9月）等を行い組織横断的な活動を深めた。
また部署ごとの生活に関する話し合いやボーッツ活動（野球・ソフト等）でも、子ども達の意思を確認し、反映されるよう進めた。
- (2) 「第三者評価」受審年度のため職員自己評価・利用者アンケート・経営層会議シート擦り合わせの後、全体報告会を10月に実施。「全養・権利擁護チェックリスト」も10月・2月に予定した。
- (3) 小学校新入学児童の生活場面（ユニット環境）が継続され、メンタル面の負担軽減に繋がった。

2. 子ども達の最善の利益の追求

- (1) 自立支援計画策定を補完する“アセスメントシート”を新たに用い、現状課題と支援の方向付けに活用。
- (2) 施設全体行事以外に、生活場面を通じた企画（花見・納涼祭り・プール遊泳・食事会・通塾・ピザ作り体験等）を尊重し、例年よりも生活体験の積み重ねに努める。また、自立支援として、入所児童は中高生を対象にした個別懇談、職業体験や奨学金申請、退寮児は家庭訪問・援助物資が届くサービスへの登録や必要な情報提供等、継続的に支援した。
- (3) 名古屋市が取りまとめた推進計画（案）をもとに、施設単体での構想案をまとめた。

3. 地域との連携強化と地域貢献の推進

- (1) ラジオ体操・ソフトボール大会等への職員派遣や設備・備品貸出等に随時努め、「地域福祉活動計画」（区社協）のワーキンググループメンバーとしては会議開催等を通じて施設への理解を深めて頂いた。
- (2) 地区委員会への職員派遣は継続し地域内パトロールを通じた防犯環境の構築に努め、顔の見える関係作りに努めた。分団登校時の付添や地域小規模では旗当番（下校時）を通じ見守り事業に寄与した。
- (3) 付帯事業は幼児部で一時保護（全355日分）及びショートステイ（全89日分）受入を積極的に行ったが、勤務負担が大きかったせいか「ハドリ・チャレンジ」の実施率は伸び悩んだ。

4. 職員の質の向上と誰もが働きやすい職場環境の整備

- (1) 内部研修としては「新任職員研修」を継続し「CSP」「安心感の輪」の定着も図った。外部講師を招聘した施設内研修（「愛着」「一時保護を活用したケース検討」「権利擁護研修」）も開催した一方、勤務上の組み辛さ、経験年数、所属部署での課題に応じた外部研修への出席は次年度も課題である。
- (2) 退職者に加えてメンタル不調を訴える職員の補強ができず、少人数の中で耐え忍び受容力を育めた職員集団に感謝したい。次年度は、環境改善（勤務改善・休暇促進等）を促し、また個別ヒヤリング等を通じてより風通しの良い組織体制の構築を図りたい。

5. 子ども・職員の防災意識のさらなる向上

- (1) 防災計画に沿って毎月の避難訓練は実施。総合防災訓練（8月）ではクイズ形式の防災教育や防災食での夕食会等を通じ、子どもの防災意識向上に努めた。
- (2) 防災用品・非常食品の見直しは委員会を中心に行う。また、法人内災害対策PJ主催の防災講座への出席で緊急時の対応に備えた。救命講習の受講勧奨は継続実施。消防署立入は指摘事項なし。

6. 養護状況調べ

* 定員51名(駒方寮:45名/ドミトリ－駒方:6名)

* 上段;駒方寮 下段;ドミトリ－駒方

	入所人員			退所人員					
	前年繰越	本年入所	計	保護者引取	自立・就職	措置変更	里子	死亡	計
男	20	8	23	1	3	0	0	0	4
	3	0	3	0	0	0	0	0	0
女	19	5	21	1	2	0	0	0	3
	3	0	3	0	0	0	0	0	0
合計	39	13	52	2	5	0	0	0	7
	6	0	6	0	0	0	0	0	0

月別	初日在籍人員			月末人員	定員充足率	月延人員	備 考		
	1, 2歳児	年少児童							
4	39	0	4	38	87%	1170	■退所:1日(小1女児)		
	6	0	2	6	100%	180			
5	38	0	4	38	84%	1178			
	6	0	2	6	100%	186			
6	38	0	4	38	84%	1140			
	6	0	2	6	100%	180			
7	38	0	4	38	84%	1178			
	6	0	2	6	100%	186			
8	38	0	4	40	84%	1178	■入所:9日(年中男児)・29日(幼児男児)・1日(幼児女児)/■退所:9日(大2女児)		
	6	0	2	6	100%	186			
9	40	0	7	40	89%	1200			
	6	0	2	6	100%	180			
10	40	0	9	42	89%	1240	■入所:1日(年長男児)・1日(幼児女児)		
	6	0	2	6	100%	186			
11	42	0	9	43	93%	1260	■入所:12日(年少女児)		
	6	0	2	6	100%	180			
12	43	0	9	44	96%	1333	■入所:4日(小1男児)		
	6	0	2	6	100%	186			
1	44	0	10	45	98%	1364	■入所:31日(年少男児)		
	6	0	2	6	100%	186			
2	45	0	11	45	100%	1260			
	6	0	2	6	100%	168			
3	45	0	11	44	100%	1395	■入所:30日(中2男児)・30日(年少男児)・31日(3未・男児)・31日(3未・女児2名) ■退所:31日(年長男児)・12日(高3女児)・26日(高3男児)・29日(高3男児)・31日(高2男女・2名)		
	6	0	3	6	100%	186			
合計					91%	14896			
					100%	2190			

7. 子どもの短期入所生活援助(ショートステイ)利用状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	5	4	6	2	2	4	1	0	0	0	0	0	24
延日数	15	14	26	10	6	16	2	0	0	0	0	0	89

8. 一時保護委託の状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	3	3	2	3	3	1	1	1	0	0	0	0	17
延日数	31	90	60	82	41	30	9	12	0	0	0	0	355

令和元年度 事業報告書（名古屋養育院・ドミトリー南風、桜風）

1. 安心安全な生活の保障

日々の養育を基本に、学期ごとの通知表話合いを個別に行い、要望や困り事の有無を確認してきた。また誕生日会や調理実習、小学生・中高生・中高生女子などグループの話合いを大切にしている。気持ちを正しい言葉で言語化でき得るよう、気づき、考え、解決する風土を大切にし、子どもの心身の健やかな成長及び発達が図られるよう支援してきた。しかし今年度末、院内で高校中退男児と中学1年女児の性的事件が発生した。ご家族や関係機関、法人にまでご心配とご迷惑を掛けてしまった。事件は未だ解決していない。男児の矯正と女児の心のケアに努め、改善策に関しては一部着手した所である。

2. 子どもの発達・自立支援

子どもが自分の辛さを語れたり、今まで言えなかつたごめんなさいが出来たりと日々の成長を伝え、職員間で共有する事を大切にしている。幼児期、学童期、思春期に応じた子どもの発達と自立に向けた支援に心掛けてきたが、今年度、高校中退児を多く輩出してしまった。中間報告で高校での人間関係の難しさから、目標を見失い、現実逃避してしまう登校渋りが見られる高校生への支援を課題として取り組んで来たが、時すでに遅かった。進学や高校生活に対する動機づけを中学生期より計画的に着手すること。また学童期からの学習意欲、社会性、そして将来に対する現実的な夢を育くんしていく事が課題である。そのためには職員の学びが大切である。委員会を再編して、自立や生と性についても学んでいく。

3. 職員の人材育成と資質向上

昭徳会基本理念「幸福」、基本方針、職員行動指針を念頭において、日常的には、昼・遅番勤務終了前ミーティングを大切に、OJTしてきた。職員会議での「法律・法人諸規定」「子どもの権利ノート」の読み合わせや、業務改善に向けたグループワークなどに取り組んできた。後期は、名古屋養育院社会的養育推進計画作成に向け、協議検討してきたところである。第三者評価の自施設評価結果、内部研修強化が課題のため、来年度は新人研修を座学三日間からスタートし、2~3年、4~6年、中堅研修に着手する。

4. 食育の改善向上

食事の時間が楽しくコミュニケーションの場となるよう、日々の食事環境保全に努めた。また栄養士が立てたメニューを基本に、給食会議で管理課厨房職員や業務課職員の意見も反映させたメニューへも変化している。食育に関する意識の向上に努めた結果、子どもたちが感謝して、食べ物を大切にする意識と行動が高まってきたと感じている。しばらく調理員が欠員のままであったが、2月より2名採用することができた。手作りおやつ、みんなでつくる料理にも取り組めそうである。今後も管理課と業務課で連携し、子どもの食育を推進させていきたい。

5. BCP（事業継続計画）の策定

BCP作成の進捗状況として、法人より示されたBCPの雛形を基に着手し、初期対応と重要業務までの素案を作成している。

残りの半期を利用して、役職者で全体の素案を作成、役職者による確認を目指していたが、立て続けに発生した高校中退者の対応に追われ、後期の目標が果たされなかった。

来年度着手を目指す。

6. 養護状況調べ

(定員 53名)

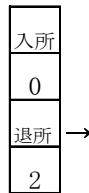
区分	入 所			退 所					計
	前年度繰越数	今年度入所数	計	就職	大学	保護者引取	措置変更		
男	23	9	32	3		3	2		8
女	20	4	24	1		6	1		8
計	43	13	56	4	0	9	3		16

月別	初日措置定員	3歳未満児	年少児	定員充足率%	月末措置人員	月延人員	備考			ショート	一時保護	里親レスパイ
							入所	退所				
4	48	3	7	90.6	45	1,440				実人数	4	0
							初日	中途	中途	末日		0
							男女	5	1			0
								2				0
5	45	3	4	84.9	45	1,395	男女				実人数	7
										延日数	25	2
6	45	3	4	84.9	45	1,350	男女				実人数	1
										延日数	2	26
7	45	3	4	84.9	47	1,395	男女		2		実人数	1
										延日数	5	62
8	47	3	4	88.7	47	1,457	男女				実人数	2
										延日数	4	123
9	49	3	6	92.5	49	1,470	男女	1			実人数	3
								1		延日数	5	73
10	50	3	6	94.3	52	1,550	男女	1			実人数	9
								1		延日数	32	62
11	52	3	7	98.1	53	1,560	男女				実人数	6
										延日数	9	58
12	53	3	8	100.0	51	1,643	男女		1		実人数	5
									2	延日数	6	26
1	51	3	7	96.2	51	1,581	男女				実人数	7
										延日数	9	44
2	51	3	7	96.2	51	1,428	男女				実人数	6
										延日数	7	22
3	51	3	7	96.2	45	1,581	男女		2		実人数	0
									4	延日数	0	20
合計	587	0	71	-	581	17,850					実人数	51
月平均	48.9	0.0	5.9	92.3	48.4	1487.5					平均	9.2
												0.0

施設名 (ドミトリー南風)

(定員 6名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
初日措置定員	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	5
3歳未満児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年少児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
備考欄													充足率	83.30



施設名 (ドミトリー桜風)

(定員 6名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
初日措置定員	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	5
3歳未満児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年少児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
備考欄													充足率	83.30



7. 施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	社会福祉法人昭徳会名古屋養育院及びドミトリー桜風ブロック塀改修工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要 設置内容の概要	<p>当院のブロック塀につきまして、平成11年度の新築移転前の東芝の職員寮が建築されていた際のブロック塀をそのまま活かしており、ブロック塀の規格、控え壁及び基礎の基準が現在の基準を下回っているため改修しました。</p> <p>ドミトリー桜風のブロック塀について、ブロック塀の建築基準を下回るものではございませんが、名古屋市より平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震によるブロック塀倒壊による死亡事故を受けて改修するよう指示を受け改修しました。</p>	
3. 修繕工事費	5,963,000円(名古屋養育院4,033,000円)、ドミトリー桜風(1,930,000円)	
4. 完了年月日	令和2年2月20日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	(有り) 無し	(1)補助・補助団体名 名古屋市 (2)補助・助成金額 名古屋養育院(2,805,000円)、ドミトリー桜風(1,243,000円)

修繕工事 NO	2
---------	---

1. 名 称	1階及び2階娯楽室の床改修工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	娯楽室のビニール畳につきまして開設当初より設置されており、きれいに掃除し消毒も行い衛生的に保っていますが老朽化のため色あせて擦れしており、また、学習用の机や椅子を設置しているため破れている箇所があるためフローリングに改修しました。	
3. 修繕工事費	680,000円	
4. 完了年月日	令和2年2月6日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	(有り) 無し	(1)補助・補助団体名 中部日本放送株式会社 (2)補助・助成金額 510,000円(CBCチャリティ募金配分金)

令和元年度 事業報告書（子ども家庭支援センターさくら）

1. 子ども虐待の予防

児童家庭支援センターの目的は虐待防止であるため、電話相談、来所相談、訪問相談、心理相談を通じ、子育てに関する不安感や焦燥感に丁寧に寄り添う事が基本となる。

今年度の相談件数は、2,287件。相談内容は、養護相談が最も多く、保健相談、育成相談と続く。相談経路は、家族・親戚関係者を筆頭に、県市町村・児童相談所・保健所、医療機関、児童福祉施設と多岐に亘っている。

また、名古屋市地域子育て支援拠点（さくらあそび場）事業も展開している。子育ての知識やスキル、子育てサークル・サロン等の情報提供、外部講師による啓蒙活動を行うと共に、子ども家庭支援センターの専門性（相談支援）を意識的に発揮し、ニーズ把握に努めている。後半期も、地域の子ども家庭における総合的拠点として情報発信と受信に工夫していく。さらに、養育者的心と体の休養を保障するため、短時間託児を社会貢献事業の一環として、今後も無料で継続実施していきたい。受入数は現場職員と相談して調整する。

2. 里親の支援

『名古屋市社会的養育推進計画』には国の指針を受け、里親フォースタッキング事業の展開が盛り込まれている。さくらとしても市、児相、名養協、里親会、里親支援専門相談員と連携を深めること。市民に里親や里親制度の認知度を上げる取組みをより充実させることが使命である。今年度も名古屋市及び里親会と主催共催し、里親制度普及事業を3度開催した。来年度は、里親説明会に名古屋市が力を入れる。今後も里親を知ってもらう取組みに工夫すると共に、里親が孤立する事なく養育できるよう、里親家庭や里親自主サークル活動のサポートを行う。

3. 職員の専門性の向上

近年、生活保護世帯の子どもの進学問題や低年齢出産育児、不登校問題、家庭でネグレクトや心理的虐待が疑われるケースなど問題が深刻かつ複雑化している。市、児童相談所、区役所、学校（スクールカウンセラー含む）、病院、保健所、障がい者基幹支援センター、民生児童委員など各機関とケースカンファレンスを開催し、連携方法と役割を明確にしたチーム支援がより求められている。子育てを孤立させない取組み、ゆっくりゆったりと育てるコモンセンスペアレンティングを学び、普及させていく活動が求められている。後半期は、相談の主訴を掴むこと、アセスメント力を磨き事に重点を置き、職員にとっても刺激を受け、資質向上に繋がっている。

来年度も南区要保護児童対策地域協議会（要対協）実務者会議構成員として、さくらの専門性を發揮できるよう努めていく。

4. 事業内容

事業名	令和元年度 里親制度普及事業
事業の内容	(1)開催日…令和元年 6月29日(土)・9月28日(土)・令和2年 1月18日(土) (2)事業内容…社会的養護の下で育つ子どもを理解することで、里親制度を市民に知つていただき、子育てを地域で行うことを目的とした研修会。講師を各々のテーマで3名招聘し、講演会やワークを中心に、名古屋市とさくらが主催開催する。 《会場》総合社会福祉会館など 《参加者合計》172名
事業名	令和元年度 短時間託児事業
事業の内容	地域における公益的な取組みである。目的としては、核家族化の進行や地域の繋がりの希薄化による保護者の育児疲れを課題に感じ、心理的・身体的負担を軽減してもらうため子育て支援事業のレスパイトとして実施している。(H17 年より開始:今年度195名利用。昨年度に比し、35名増)
事業名	令和元年度 スマイルデーなごや2019
事業の内容	(1)開催日…令和元年7月31日(水) (2)事業内容…各相談窓口への理解を深めることにより、子ども・若者の自殺予防に繋げることを目的に、主催名古屋市 後援さくらや法テラスや多くの相談機関、大学心理学部でイベントブースを設置し一般市民の相談に応じる。 《会場》オアシス21「銀河の広場」(名古屋市東区)
事業名	令和元年度 見守り支援者:すくすくボランティア養成講座
事業の内容	(1)開催日…5・7・8・9・11・12・1・2月の年間7回 (2)事業内容…親子を温かく見守り、地域子育て支援と児童虐待予防に繋げることを目的に、市内 8 区を対象に、講師:前島美津枝氏とさくらが中心になり養成講座を開設。 主催:名古屋市・さくら
事業名	令和元年度 さくら里親サロン
事業の内容	(1)開催日…4月、5月2回、8月、9月、11月、1月、2月の年間8回 (2)事業内容…里親・里子で参加。5月(自立のその後)8月(アンガーマネジメント)11月(親子クッキング)1月(花育)・2月(自立について考え方) 《会場》名古屋養育院和室 今FSW・松岡自立支援担当職員も参加 《年間参加者》106名 ※昨年度に比し56名増

5. 設備整備状況（さくら）

物品 NO	1				
1. 物品の名称	公用車の購入（タンク：名古屋507の5493）				
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	<p>子ども家庭支援センターさくらで使用している公用車につきまして、軽自動車（ワゴンR：名古屋580ち7365：平成19年3月26日取得）を主に使用し児童相談所からの指導委託先への相談訪問や送迎及び個人からの依頼により子育てや家庭の悩みなどの相談訪問に使用しています。</p> <p>また、該当するワゴンRにつきまして里親への相談訪問に兼用で使用しており、社会的養育推進計画の発出により里親支援専門相談員の業務が増加傾向にあり1台の公用車では業務を円滑に行うことができないのが現状であるため整備しました。</p>				
3. 購入金額	1, 590, 000円				
4. 購入年月日	令和1年7月31日				
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	<table border="1" style="width: 100px; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="padding: 5px;">有り</td> <td style="padding: 5px;">(1) 補助・助成団体名</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><input checked="" type="radio"/> 無し</td> <td style="padding: 5px;">(2) 補助・助成金額</td> </tr> </table>	有り	(1) 補助・助成団体名	<input checked="" type="radio"/> 無し	(2) 補助・助成金額
有り	(1) 補助・助成団体名				
<input checked="" type="radio"/> 無し	(2) 補助・助成金額				

物品 NO	2				
1. 物品の名称	公用車の更新（ヴィッツ：名古屋507ふ8863）				
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	<p>子ども家庭支援センターさくらでの活動で使用している軽自動車（ワゴンR）につきまして、間もなく14年経過し（48,960km）振動が大きくなってきており更新の時期となっています。</p> <p>さくらの令和元年度2次補正予算（案）及び令和2年度当初予算（案）を作成するにあたって各種の計算、見積書を徴したところ、令和2年度より育児休業者の復帰及び相談員の増員により人件費支出が増加するため令和元年度に前期末繰越金を取崩して公用車を購入することが最良であると思慮し整備しました。</p>				
3. 購入金額	1, 590, 000円				
4. 購入年月日	令和2年3月19日				
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	<table border="1" style="width: 100px; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="padding: 5px;">有り</td> <td style="padding: 5px;">(1) 補助・助成団体名</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><input checked="" type="radio"/> 無し</td> <td style="padding: 5px;">(2) 補助・助成金額</td> </tr> </table>	有り	(1) 補助・助成団体名	<input checked="" type="radio"/> 無し	(2) 補助・助成金額
有り	(1) 補助・助成団体名				
<input checked="" type="radio"/> 無し	(2) 補助・助成金額				

令和元年度 事業報告書 (名古屋若松寮・はぐみ)

1. 事業計画の達成状況

(1) 子どもたちの気持ちに寄り添い、安全で安心できる生活環境作りに努める。

職員と子どもとの関係もできつつあり、各ホームで子ども個々の状況に応じた柔軟な対応ができる。ただ、子ども同士の関係性において、安全で安心できる生活環境にはなっておらず、暴言・圧力・嫌がらせなどが多くあるため、今後も継続して生活環境作りに努める。

(2) 子どもの権利擁護に努めるとともに、自立に向けた支援を目指す。

権利侵害のチェックリストの活用や会議等での啓発、権利擁護委員会による他施設見学等から、職員全体の権利擁護に対する意識は高まっている。一方、自立に向けた支援に関してはまだ十分ではない。今年度の高校3年生は1名が進学、1名が就職（令和2年4月に入ってから内定）。高校中退児が1名、高校転学編入・措置変更児が1名となってしまった。退寮児も専門学校中退、退職等があり、今後も支援充実に努める。

(3) 開設2年目となる小規模児童養護施設「はぐみ」の運営の基盤を確固たるものにする。

「はぐみ」が開設し2年が経ち、職員配置も充実し支援体制が確立してきた。近隣住民とも日常的に交流があり、子ども会等とも協力し合いながら、運営している。ただ、空間が狭く、子ども同士の関係性が密であるため、子ども同士の揉め事が多く、落ち着かない面がある。今後も安定した支援・運営ができるよう努める。

(4) 家庭的な食環境の整備に努め、子どもたちの食育に繋げる。

各ホームでの業務課職員による調理の機会が増え、ホームでの調理が少しずつ定着してきた。子どもの意見をメニューに反映したり、買い物等も一緒に行うなどしている。食事を通じて心の豊かさなどを支援することはまだまだ十分にはできていないので、今後も食育に努める。

(5) 「新しい社会的養育ビジョン」の内容を受け、中長期計画を見直し、実践に繋げていく。

各ホームでの調理は当初の計画を前倒しして進めている。ユニットの定員を減らし、生活単位の少人数化については、名古屋市全体との兼ね合いもあり、地域小規模児童養護施設をもう1軒増やすか検討中。（3月に当施設の推進計画は名古屋市に提出済み）若松寮

2. 養護状況調べ

(定員32名)

区分	入 所			退 所					計
	前年度繰越数	今年度入所数	計	就職	大学	保護者 引取	措置変更	計	
男	14	4	18			2			2
女	12	2	14		1				1
計	26	6	32	0	1	2	0		3

月別	初日措 置定員	3歳未 満児	年少児	定員充 足率%	月末措 置人員	月延 人員	備考		一時 保護	ショ ート
							入所		退所	
							初日	中途	中途	末日
4	26		1	81.3	28	780	男	1		
							女	1		
5	28			87.5	29	868	男		1	
							女			
6	29			90.6	29	870	男			
							女			
7	29			90.6	29	899	男			
							女			
8	29			90.6	29	899	男			
							女			
9	29			90.6	29	870	男			
							女			
10	29			90.6	29	899	男			
							女			
11	29			90.6	29	870	男			
							女			
12	30			93.8	30	930	男			
							女	1		
1	30			93.8	30	930	男			
							女			
2	30			93.8	30	840	男			
							女			
3	30			93.8	31	930	男	2	1	1
							女	1		
合計	348	0	1	-	352	10,585				
月平均	29.0	0.0	0.1	90.6	29.3	882.1				
									平均	5.0 2.3

施設名 (はぐみ) (定員 6名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
初日措置定員	4	4	4	5	5	3	3	3	6	6	6	6	55	4.6
3歳未満児	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4	0.3
年少児	0	0	0	1	1	1	1	1	2	2	2	2	13	1.1
学齢児	4	4	4	4	4	2	2	2	3	3	3	3	38	3.2
備考欄													充足率	76%
ショート	3	1		1		1					1	7	1.4	
一時保護			1		2	2	2					7	1.8	

入所	4	措置 変更	0
退所	4	保護者 引取	4
	4	就職	0
		大学	0

3. 施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	児童棟空調清掃、及び保守点検	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	約3年ごとの清掃、及び保守点検を実施する。	
3. 修繕工事費	¥1, 284, 800	
4. 契約年月日	令和1年11月5日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り  無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

令和元年度 事業報告書 (自立援助ホーム慈泉寮・かりん)

1. 事業計画の達成状況

(1) 20歳前後の社会的養護を必要とする子どもたちのための取り組み。

慈泉寮は男女混合型として就労と就学の利用者が生活しており、かりんは、女子就学者が利用している。男女とも満床状態が続いている。児童相談所や家庭裁判所からの入居相談も多くある。自立援助ホームでの生活援助で気持ちを持てる者もあるが、最近では20歳近くになっても自己自立への難しさが伺える。

(2) ステップハウス事業の推進と今後の取り組み。

ステップハウスは社会的養育の資源として利用価値は大きいにある。仕事を失い、住居を失った施設退所児童の一時的な資源となっている。来年度はモデルを外して「名古屋市社会的養育ステップハウス事業」として、市営住宅に加えて民間アパートを追加し展開していく。

(3) 就労支援事業の今後の取組みと位置付けを明確にしていく。

就労支援事業は様々な資源を活用して展開してきた。今年度は全社協からリスタート事業モデル助成をいただき必要とするケースが多くあった。就労支援については、多くの企業貢献もあり、事業推進してきた。

(4) 環境整備（外壁工事に向けて）。

外壁工事に向けて少しずつ積立をしてきた。助成金をいただければよいが、もう少し財政状況を見ながら検討していく必要あり。今年度は特にコロナ対応で厳しい状況でもあった。

(5) 自立援助ホームへの人材確保対策。

今年度は、かりんに名古屋若松寮から職員異動を行い、何とか配置基準に達した。今後は上手く勤務ローテーションを考えながら人材育成と非常勤の確保等を行っていく。全国的にも自立援助ホームの人材確保は厳しい状況にある。

2. 利用者状況報告

入退居件数

入退所	男	女
前年度繰越数	1	5
入居住件数	8	3
退居住件数	4	3
入居住件数合計	11	
退居住件数合計	7	

年齢別入居住件数

年齢	男	女
15歳	3	1
16歳	1	
17歳	2	1
18歳		1
19歳	2	
合計	8	3

相談経路別入居住件数

相談経路	男	女
名古屋市児童相談所	8	3
市外児童相談所		
市内児童養護施設		
市外児童養護施設		
児童自立支援施設		
情緒障害児短期治療施設		
家庭裁判所		
保護観察所		
弁護士		
少年院		
市内区役所		
家庭・里親		
その他		
合計	8	3

年齢別相談件数

年齢	男	女
中学生		
15歳	5	4
16歳	4	4
17歳	3	3
18歳	2	3
19歳	2	4
20歳以上		
不明	1	1
合計	17	19
	36	

入居措置種別

種別	男	女
委託措置	3	1
一時保護委託	5	2
補導委託等		
18歳超私的契約		
合計	8	3

退居先別件数

退所先	男	女
アパート移動		1
会社寮等へ移動	1	
他施設・機関へ移動	3	1
親族・知人宅へ移動		1
無断退居移動		
その他(病院)		
合計	4	3

アフターケア件数

対応項目	男	女
来寮	29	27
訪問	16	1
電話	192	36
メール	54	15
金銭援助		1
トラブル・問題発生		
宿泊		
その他	83	26
合計	374	106

相談経路別相談件数

相談経路	男	女
名古屋市児童相談所	7	5
市外児童相談所	2	5
市内児童養護施設		
市外児童養護施設	1	2
児童自立支援施設		
情緒障害児短期治療施設		
家庭裁判所		
保護観察所	1	
弁護士	1	1
少年院		1
市内区役所		
病院		
家庭・里親	1	
その他	4	5
合計	17	19
	36	

3. 利用者状況報告 (かりん)

入退居件数

入退所	男	女
前年度繰越数		2
入居件数		3
退居件数		3
入居件数合計	3	
退居件数合計	3	

学校公立私立件数

設置者による分類	男	女
公立		2
私立		1
合計	0	3

教育課程別件数

課程別通学者数	男	女
全目制		1
定時制		2
その他		
合計	0	3

年齢別入居件数

年齢	男	女
15歳		
16歳		2
17歳		1
18歳		
19歳		
合計	0	3

相談経路別入居件数

相談経路	男	女
名古屋市児童相談所		3
市外児童相談所		
市内児童養護施設		
市外児童養護施設		
児童自立支援施設		
その他		
合計	0	3

年齢別相談件数

年齢	男	女
中学生		
15歳		4
16歳		2
17歳		3
18歳		1
19歳		
20歳以上		
不明		5
合計	0	15

(定員 4)

入居措置種別

種別	男	女
委託措置		1
一時保護委託		2
補導委託等		
18歳超私的契約		
合計	0	3

退居先別件数

退所先	男	女
アパート移動		
会社寮等へ移動		1
他施設・機関へ移動		
親族・知人宅へ移動		1
無断退居移動		
その他(病院)		1
合計	0	3

アフターケア件数

対応項目	男	女
来所		6
訪問		1
電話		11
メール		
金銭援助		
トラブル・問題発生		
宿泊		
その他		1
合計	0	19

相談経路別相談件数

相談経路	男	女
名古屋市児童相談所		4
市外児童相談所		8
市内児童養護施設		
市外児童養護施設		
児童自立支援施設		
情緒障害児短期治療施設		
家庭裁判所		
保護観察所		
弁護士		2
少年院		
市内区役所		
福祉事務所		
家庭・里親		
その他		1
合計	0	15

4. 事業実績報告書 (ステップハウス)

(定員4名)

	引山荘	北希望荘	合計
4月	2	1	3
5月	1	1	2
6月	1	1	2
7月	2	2	4
8月	2	2	4
9月	2	2	4
10月	2	2	4
11月	2	2	4
12月	1	1	2
1月	1	1	2
2月	1	0	1
3月	1	0	1
合計	18	15	33

5. 就労支援事業 実績件数

(サポートいすみ)

相談受理人数(実数)

受理種別	入所中	退所後	合計
新規受理	15	18	33
再相談受理	2	5	7
継続受理	12	21	33
合計	29	44	73

年齢別相談人数(実数)

学年・年齢	入所中	退所後
中学生	1	
高校生	11	0
高校中退(年度内中退)	1	
専門・短大・大学在学	4	0
専門・短大・大学中退	0	0
15歳～19歳	12	22
20歳～24歳		20
25歳～29歳		1
30歳～34歳		1
35歳以上		0
小計	29	44
合計	73	

年齢別相談件数(延数)

学年・年齢	入所中	退所後
中学生	5	
高校生	174	15
高校中退	0	
専門・短大・大学在学	47	47
専門・短大・大学中退	0	0
15歳～19歳	243	264
20歳～24歳		269
25歳～29歳		9
30歳～34歳		14
35歳以上		0
小計	469	618
合計	1087	

生活保護受給者相談人数・件数(実数・延数)

退所後	(実数)	(延件数)
生活保護あり	7	71
生活保護なし	37	547
合計	44	618

障害手帳所持者相談人数・件数(実数・延数)

	(実数)		(延件数)	
	入所中	退所後	入所中	退所後
手帳なし	26	36	456	481
手帳あり	愛護手帳	3	6	13
	精神手帳	0	2	0
	小計	29	44	469
	合計	73		1087

就職決定人数(実数)

在籍・出身施設種別	入所中	退所後	合計
児童養護施設	5	7	12
里親・ファミリーホーム	0	0	0
児童自立支援施設	0	0	0
児童心理治療施設	0	0	0
児童相談所・一時保護所	4	3	7
自立援助ホーム	3	2	5
合計	12	12	24

措置・出身施設別相談人数(実数)

施設種別	入所中	退所後	合計
児童養護施設	17	21	38
里親・ファミリーホーム	1	1	2
児童自立支援施設	0	0	0
児童心理治療施設	0	0	0
児童相談所・一時保護所	2	8	10
自立援助ホーム	9	14	23
合計	29	44	73

措置・出身施設別相談件数(延数)

施設種別	入所中	退所後	合計
児童養護施設	147	313	460
里親・ファミリーホーム	17	11	28
児童自立支援施設	0	0	0
児童心理治療施設	0	0	0
児童相談所・一時保護所	120	110	230
自立援助ホーム	185	184	369
合計	469	618	1087

措置・出身施設別相談人数(新規受理実数)30年度

施設種別	入所中	退所後	合計
児童養護施設	11	8	19
里親・ファミリーホーム	1	0	1
児童自立支援施設	0	0	0
児童心理治療施設	0	0	0
児童相談所・一時保護所	2	5	7
自立援助ホーム	1	5	6
合計	15	18	33

相談経路(実数)

本人	0
児相	7
施設	24
区役所	0
児家セン	0
障害支援S	0
福祉関係	0
里親	1
その他(就労支援団体)	1
合計	33

相談方法・内容別(延数)

方法・相談内容		入所中	退所後	合計			
訪問	就労前相談	5	1	356			
	就労活動支援	122	47				
	アフターケア	34	69				
	居所確保等支援	1	13				
	転居手続き等支援	1	6				
	法律相談	1	0				
	その他相談	11	45				
小計		175	181				
来所	就労前相談	0	0	26			
	就労活動支援	11	3				
	アフターケア	3	7				
	居所確保等支援	0	0				
	転居手続き等支援	0	0				
	法律相談	0	0				
	その他相談	0	2				
小計		14	12				
電話	就労前相談	1	0	307			
	就労活動支援	98	64				
	アフターケア	20	47				
	居所確保等支援	0	6				
	転居手続き等支援	1	2				
	法律相談	1	0				
	その他相談	8	56				
小計		129	178				
通信	就労前相談	0	0	65			
	就労活動支援	19	8				
	アフターケア	0	15				
	居所確保等支援	0	4				
	転居手続き等支援	0	1				
	法律相談	0	0				
	その他相談	0	18				
小計		19	46				
検討		小計	132	261			
				333			
合計	就労支援	就労前相談 就労活動支援 アフターケア	6 250 57	313	1 122 141	264	1087
	居所支援	居所確保等支援 転居手続き等支援	1 2	3	23 9	32	
	法律相談		2			0	
	その他相談		19			121	
	相談検討		132			201	
	小計の合計		469			618	

退所後・地域別相談人数(実数)

千種	6	中	0	港	3	天白	0
東	0	昭和	5	南	1	市外	12
北	1	瑞穂	1	守山	3	不詳	0
西	2	熱田	2	緑	1	合計	44
中村	1	中川	2	名東	4		

退所後・地域別相談件数(延数)

千種	54	中	0	港	5	天白	0
東	5	昭和	63	南	31	市外	158
北	28	瑞穂	44	守山	31	不詳	0
西	6	熱田	17	緑	28	合計	618
中村	24	中川	33	名東	91		

令和元年度 事業報告書（小原学園）

1 魅力ある施設作り

昨年度から小規模グループケアの活動に取り組み、家庭的な雰囲気の中、自立に必要な調理、洗濯、清掃等を、毎日の生活の中で行うことにより、着実に自立生活技術の向上につながった。調理実習においては、カレーライス、シュウマイ、ハンバーグ、肉じゃがの定番メニューを継続した。茹でる、切る、炒めると色々な調理工程のある料理で調理が覚えきれない利用者もいた。調理方法に関しても上級生を中心に定着しており、メニューによってはレシピを見なくとも調理ができ、調理技術の向上はもとより利用者の自信にも繋がっている。

自治会活動では、利用者が主体となって企画した行事を2回開催することができた。企画から運営まで利用者主体で行い、今年度は鬼ごっこ、綱引き、玉入れ、リレー、椅子取りゲーム、風船バレー、ボッチャを開催することができた。ボッチャではうまくできない利用者さんにコツを教えたり、失敗しても励ましたりと相手を思いやる姿が見られた。

一人ひとりの要望・希望に合わせた目的別的小グループの園外活動は利用者の楽しみの一つとなってきたが、今年も食事関連の希望が増加したことが大きな特徴であった。また、利用者が自分の欲しいものを購入するため支給金を貯める姿も恒例となった。

環境整備では、環境衛生委員会を中心に毎週日曜日の一斉清掃を実践してきたため、利用者にも定着し積極的に清掃する姿も見受けられた。小原移転後15年が過ぎ、壁や建具、扉、給湯器等の傷みや老朽化が目立ってきたため、点検し不具合のあるものについては修理を行った。

進路委員会を中心に4名の高等部3年生の進路についての取り組みを行い、学校や児相、市町の障害福祉課、相談支援事業所等の関係機関と連携し、一人ひとりに対してのサポート会議を開催して進路を検討した。その結果、3名はGHに、1名は成人施設へ行くこととなった。又、退園後のサポートでは、退園した利用者の移行先である作業所、GHに今年も出向いたり、事業所に様子を確認する等のアフターフォローを行った。

2 地域支援サービスの充実

短期入所事業(日中短期含む)については登録者数の減少と共に、利用者が減少しており、年間591日(短期入所及び日中短期)の利用となった。利用状況としては平日の学校後の受け入れ(送迎バス利用)が多く、近隣地域における社会福祉資源の一つとして地域貢献が継続できている。

地域交流委員会を中心に地域の方々に積極的に来て頂ける体制を整え、読み聞かせの会、折り紙交流、パン作り、セラピー犬等の交流を定期的に開催し、年間延べ37名のボランティアの方々に来て頂くことができた。地元の学校との交流(学芸会・文化祭交流、小原周回鍛錬等)も定期的に行われている。太鼓に関しては、例年の小原四季桜まつりや法人の他施設(高浜安立荘)から演奏依頼を受け演奏することができた。

心理療法を開始し5年が経過した。具体的な形での成果は現れていないが、利用者を多面的に捉えることができるようになった。

3 職員の資質向上

法人の評価制度を利用してのOJTを行うと共に、職員個々の状況に合わせた各種研修への積極的な参加、各ユニットで年間を通して事例研究を行い、パワーポイントを使用しての発表会を行った。

課題解決手法であるインシデントプロセス法講習に関しては、今年度も小野医師を講師として招き、事例検討を年3回開催し、その後に各棟でフィードバックを行うことにより課題の共有と支援の幅の拡大に繋げた。

内部研修では、職員間のコミュニケーションを深めるグループワークを行い、価値観の相違はある中でも方向性を一致させることの大切さを学んだり、法令遵守(コンプライアンス)マニュアルの読み合せを行う等理解を深めた。また、障害児者の権利擁護と虐待防止についての学習を行い、施設での虐待防止の一助とした。そして各種マニュアルを使用することにより業務の標準化及び倫理観の向上を図った。

これらの取り組みにより、職員個々の資質向上を図り、チーム力向上の底上げを行った。

4 安定した事業運営

充足率については、今年度は87.9%（昨年度は96.5%）となった。

短期入所（日中一時支援含む）は年間591日を超えたが前年度の725日に較べると大きく減少した。実習生及び、学生ボランティアに関しては年間延べ216名を受け入れることができた。

大規模災害等を想定し、抜き打ちの避難訓練を毎月実施、全職員参加の普通救急訓練及び炊き出し訓練等を実施することで、職員及び利用者が危機意識を持つことに繋がった。又、地域的に有事の際は孤立する可能性が高いため、停電への対応として発電機の使用方法の確認、体験を行った。

新多目的室を有効に活用し、利用者にとって快適な余暇やリラクゼーション活動の場、太鼓の練習・保管場所、心理療法の場とした。

5 入所者利用状況報告書

（定員 40名）

区分	入所			退所						R2.3.31 現在入所人員
	前年 繰越	本年 入所	計	就職	保護者引取り	措置変更	グループホーム等	成人施設等	死亡	
男	17	1	18				2			2 16
女	16	4	20				2	1		3 17
計	33	5	38				4	1		5 33

月別	初日措置人数 (契約)	(重度者) (契約)	充足率	延べ人数
4月	34 (1)	15	85%	1,020
5月	34 (1)	15	85%	1,054
6月	34 (1)	15	85%	1,020
7月	35 (1)	15	87.5%	1,085
8月	35 (1)	15	87.5%	1,085
9月	35 (1)	15	87.5%	1,056
10月	35 (2)	15	87.5%	1,085
11月	36 (2)	16	90%	1,080
12月	36 (2)	16	90%	1,116
1月	36 (2)	16	90%	1,116
2月	36 (2)	16	90%	1,044
3月	36 (2)	16	90%	1,116
合計	422 (18)	185	1055%	12,871人
月平均	35.2人	15.4人	87.9%	1,072人

平成30年度の高等部3年生6名のうち、5人はGHに進路が決まり、1人は成人入所施設の短期入所を利用することとなった。又、令和元年度は、34名でのスタートとなった。

年間を通じ34～36名を推移し、充足率は月平均で87.9%（30年度は96.5%）となった。

令和元年度は高等部3年生が5名であったが、グループホーム入所3人とグループホーム短期入所（のち成人施設）1人、成人施設1人の進路が決まり無事退園した。令和2年度は、34名（充足率85%）のスタートとなる。

6 短期入所利用状況報告書

月別利用状況

(定員 8名)

	利用日数	(内日中短期事業)				計
		4時間未満	4~8時間	8時間以上		
4月	40	0	8	9	17	
5月	56	1	7	6	14	
6月	48	3	6	4	13	
7月	59	1	6	5	12	
8月	55	0	1	12	13	
9月	59	0	7	5	12	
10月	53	0	11	3	14	
11月	69	0	12	2	14	
12月	42	1	4	5	10	
1月	45	0	8	6	14	
2月	44	1	7	5	13	
3月	21	0	0	0	0	
計	591	7	77	62	146	

一件あたりの利用日数

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	13日	19日	計
人数	146	188	10				1			1	1	347
利用日数	146	376	30				7			13	19	591

短期入所事業も15年目を迎え、地域の方々には概ね好評を得ている。今年度も昨年に引き続き14名の登録者が18歳になり契約解除となった。新たな登録は2件にとどまり、契約者数は73名（3月31日現在）となった。そして実際に利用している方々も大きく減少している。新規利用者が増えないことが大きな要因となっている。市街地に放課後等デイサービス事業が展開してきたことに加え、学区が変わったことも影響しているかもしれない。

令和元年度は長期休暇(春休み、夏休み、冬休み)以外にも高等部送迎用のマイクロバスを利用しての短期入所及び日中短期の受け入れを継続した。

又、全体の受け入れ総数(短期入所・日中短期)591人(平成30年度は725人)、一日平均で1.61人と4年続けて大幅な減少となってしまった。利用理由としては短期入所ではレスパイト(保護者の休養)が最も多かったが、日中短期では保護者の仕事の都合が最も多かったのは昨年と変わらなかった。

7. 施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	小原福祉ビレッジ東法面復旧工事	
2. 修繕工事の理由並びに設置内容の概要	小原福祉ビレッジ東法面が一部崩落したため、法面全体の復旧工事を実施した。	
3. 修繕工事費	小原学園負担分￥2, 166, 334-(全体￥14, 406, 120-)	
4. 完了年月日	令和元年 7月 25日	
5. 法人、施設以外からの補助金および助成金の有無	無し	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

修繕工事 NO	2
---------	---

1. 名 称	浄化槽機器取替修理工事	
2. 修繕工事の理由並びに設置内容の概要	浄化槽ポンプ等の交換時期となり、劣化により停止してしまわないよう修繕工事を実施した。	
3. 修繕工事費	小原学園負担分￥324, 812-(全体￥2, 160, 000-)	
4. 完了年月日	令和1年9月30日	
5. 法人、施設以外からの補助金および助成金の有無	有り 無し	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

修繕工事 NO	3
---------	---

1. 名 称	厨房給湯器2台修理工事	
2. 修繕工事の理由並びに設置内容の概要	厨房内給湯器の部品交換、排気筒修理を実施した。	
3. 修繕工事費	小原学園負担分￥220, 591-(全体￥992, 660-)	
4. 完了年月日	令和元年 7月 25日	
5. 法人、施設以外からの補助金および助成金の有無	無し	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

物品 NO	1
-------	---

1. 物品の名称	公用車(エスティマ)	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	公用車(エスティマ)は、購入以来15年、利用者の通院、地域の小学校、中学校の送迎で使用していた。耐用年数から乗り慣れた同一車種への更新が適切と判断し購入した。	
3. 購入金額	¥ 3, 770, 000-	
4. 購入年月日	令和元年 3月9日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	無し	(1)補助・助成団体名 (2)補助・助成金額

令和元年度 事業報告書 （ 小原寮 ）

1. 事業計画の達成状況

(1) 充実したサービス提供と支援体制の構築

- ① 利用者への意思決定支援の取組みでは、支援計画作成の際は、「コミュニケーション」についての項目を反映させたり、選択の機会など、意思決定場面を意識的に設定しているが、意思決定支援に対しての職員個々での知識や認識が曖昧な部分が見受けられるため、研修・勉強会を通じて統一した見解を持てるよう周知した。
- ② 利用者の障がい特性、身体機能に合わせた住環境及び日中活動を構築では、「高齢化・重度化」に関する住環境等のハード面となると、どうしても大規模なものが必要となっていくため、長期的計画で進めている。日中活動構築においては、午前は班別活動を行わず、散歩活動など、身体を動かす活動に切り替えている。長期的なスパンで少しづつ進めた。
- ③ 医療機関、福祉関係施設との連携及び情報交換によるネットワークの展開では、医療機関受診頻度は確実に増えており、少ない職員体制の中で何とか受診している状況で、通院時に医療機関とのコミュニケーションを図った。
- ④ グループホーム「さくや」のバックアップ施設としての役割と連携では、継続して、地域委員を中心に石畳ふれあい朝市、小学校中学校との交流で連携を行った。

(2) 地域交流、地域公益活動の推進及び障がい者理解に繋がる取り組み

- ① 地域行事及び奉仕活動への積極的な参加と、地域社会資源の有効活用では、職員の体制上、困難な状況ではあるが、定例の藤岡地区石畠朝市、地元行事（小原文化祭り、四季桜まつり等）への参加を継続維持した。
- ② 開かれた施設を目指して設備を開放し、地域住民との交流の機会を設けるでは、毎年恒例のあんさんパレード、ふれあい広場わんだふるにとどまった。
- ③ 地元小中学校との交流、障がい者理解の推進では、地域委員会とGHさくやが中心となり、給食、清掃交流を継続、また、中学生対象に「障がいについて知る学習会」を開催、中学生を招いての吹奏楽演奏交流を行った。
- ④ 他法人施設との交流、相互施設の職員及び利用者との親睦を図るでは、同市内の通所授産所と定期的にお互いの施設を訪問し、作業、散策を通じて職員・利用者共に交流を実施した。
- ⑤ ホームページを活用し施設PR及び相談窓口の開設により地域貢献を図るでは、現時点において、HPの記事内容の更新にとどまっている状況である。

(3) 職員の意識及び資質の向上

- ① 専門知識、支援技術の習得・向上では、外部研修の参加に関して、豊田市主催の「重度障がい者支援職員研修会」の年間コースに自己啓発で参加している。また、若手職員を中心に法人内の自己啓発研修にも参加している。後期はそれらの研修会などの情報伝達や学習会を積極的に行った。
- ② 「虐待防止」の取り組みでは、8月、職員が過剰的な不適切行為による利用者にケガをさせ、所轄官公庁（豊田市）から虐待と認定されたことにより、虐待防止を強化するために改善計画を作成し、その計画を基に虐待防止の取組みに努め、適切なサービス提供を推進した。

(4) 適正な施設経営及び運営の推進

- ① 安定かつ適正な施設経営では、利用者の今年度の稼働率は定員140名のところ132名と91.4%を維持している状況である。利用者の減員は高齢化に伴い、介護保険施設に移行する利用者が増加しているが主な理由である。経営的には職員体制上（職員減）の関係もあり、人件費率がある程度抑えられているため、修繕費に流用した。
- ② 非常災害等における緊急対応策の整備及び防犯対策の強化では、非常災害時等におけるマニュアルや設備・備品の見直しにおいては、防災・防犯対策委員会が中心となって進め、防犯対策においては、警察署員を招き、講義を受講した。

- ③ 計画的な施設設備・備品の整備及び修繕では、利用者の生活に支障が及ばないように、危険の伴う設備の故障について、現場職員の協力体制により、迅速な修繕を実施した。
パソコン更新購入・空調機器取替修繕・東側法面復旧工事・居室等の改修工事等
- ④ 施設運営の取組みにおける各種マニュアルの見直し及び作成では、小原寮防犯マニュアルを作成し、その他各種マニュアルを各棟フロアユニットに配置した。今後において、運用によるマニュアルの見直しを毎期ごとに行っていく。

2. 利用状況

(入所定員 140名)

区分	入 所			退 所							計
	前年度 越年	本年度 入所	計	就職	保護者 引取り	長期 入院	施設 変更	就業訓練所 入 所	里子	死 亡	
男	83	1	84	0	0	0	0	0	0	1	1
女	49	0	49	0	0	0	1	0	0	0	1
計	132	1	133	0	0	0	1	0	0	1	2

		入所 実人員	入所 延人員	入所 充足率	短期 実人員	短期 延人員	短期 充足率	三種 重複障害者	障害程度区分				
定員	月別								6	5	4	3	2
入所 140	4月	132	3,811	90.7%	5	65	24.1%	5	57	52	22	1	0
	5月	131	3,910	90.1%	7	92	33.0%	5	57	52	21	1	0
	6月	132	3,917	93.3%	5	73	27.0%	5	58	52	21	1	0
	7月	132	4,045	93.2%	5	71	25.4%	5	58	52	21	1	0
	8月	132	3,873	89.2%	5	74	26.5%	5	58	52	21	1	0
	9月	132	3,941	93.8%	5	79	29.3%	5	58	52	21	1	0
	10月	132	4,076	93.9%	5	74	26.5%	5	58	52	21	1	0
	11月	132	3,936	93.7%	5	69	25.6%	5	58	52	21	1	0
	12月	132	3,971	91.5%	5	60	21.5%	5	58	52	21	1	0
	1月	132	3,951	91.0%	5	70	25.1%	5	58	52	21	1	0
	2月	131	3,777	93.0%	6	75	28.7%	5	57	52	21	1	0
	3月	131	4,045	93.2%	4	42	15.1%	5	57	52	21	1	0
集計	合計	1,581	47,253	92.2%	62	844	25.6%	60	692	624	253	12	0
月平均		132	3,938		5	70		5	58	52	21	1	0

(注) 定員充足率および月平均値は、小数点第2位を四捨五入。

- ・平均障害程度区分は5.2
- ・入所延人員は施設入所事業の人数
- ・入所充足率は前年度比0.9%ダウン
- ・短期入所は前年度比0.7%ダウン
- ・生活介護事業の1日平均実人員は129.2名

3. 施設整備状況調書

工事	1 / 6	内 容
1	工事の名称	小原福祉ビレッジ受電用避雷器、高圧ケーブルの更新
2	工事の理由並びに工事内容の概要	小原福祉ビレッジ内キュービクルの受電用避雷器ならびに高圧ケーブルが設置後16年を経過しており、部品の交換を行った。
3	工事費	小原寮負担額 金 3 7 2 , 3 1 6 円 (全体 7 0 7 , 4 0 0 円)
4	工 期	令和1年5月29日
5	法人、施設以外からの補助金・助成金の有無	補助団体 無し 補助金額

工事	2 / 6	内 容
1	工事の名称	小原福祉ビレッジ東法面復旧工事
2	工事の理由並びに工事内容の概要	小原福祉ビレッジ東法面が一部崩落したため、法面の復旧工事を実施した。
3	工事費	小原寮負担額 金 7 , 5 8 2 , 1 6 8 円 (全体 1 4 , 4 0 6 , 1 2 0 円)
4	工 期	令和1年5月11日 から 令和1年7月25日
5	法人、施設以外からの補助金・助成金の有無	補助団体 無し 補助金額

工事	3 / 6	内 容
1	工事の名称	C棟Cユニット床・壁補修工事
2	工事の理由並びに工事内容の概要	C棟Cユニットの床が腐食し、また壁の剥がれ・廊下洗面台部分の壁等傷んでおり全面的に補修工事を実施した。
3	工事費	金 2 , 3 7 6 , 0 0 0 円
4	工 期	令和1年8月29日 から 令和1年9月5日
5	法人、施設以外からの補助金・助成金の有無	補助団体 無し 補助金額

工事	4 / 6	内 容
1	工事の名称	浄化槽機器取替修理工事
2	工事の理由並びに工事内容の概要	浄化槽ポンプ等の交換時期となり、劣化により停止してしまわないよう修繕工事を実施した。
3	工事費	小原寮負担額 金 1 , 1 3 6 , 8 4 2 円 (全体 2 , 1 6 0 , 0 0 0 円)
4	工 期	令和1年9月20日 から 令和1年9月30日
5	法人、施設以外からの補助金・助成金の有無	補助団体 補助金額

工事	5 / 6	内 容
1	工事の名称	厨房給湯器2台修理工事
2	工事の理由並びに工事内容の概要	厨房内給湯器の部品交換、排気筒修理を実施した。
3	工事費	小原寮負担額 金 5 2 0 , 0 6 9 円 (全体992,660円)
4	工 期	令和1年5月27日 から 令和1年5月29日
5	法人、施設以外からの補助金・助成金の有無	補助団体 無し 補助金額

工事	6 / 6	内 容
1	工事の名称	A棟・B棟エレベーター修理工事
2	工事の理由並びに工事内容の概要	エレベーター部品の交換時期となり、劣化により停止してしまわないよう修理工事を実施した
3	工事費	金 1 , 8 2 6 , 0 0 0 円
4	工 期	令和1年8月23日 から 令和1年8月31日
5	法人、施設以外からの補助金・助成金の有無	補助団体 無し 補助金額

工事	7 / 6	内 容
1	工事の名称	C棟空調屋外機2基・屋内機6台更新工事
2	工事の理由並びに工事内容の概要	経年劣化が著しく、空調運転が困難になったため、更新工事を実施した。
3	工事費	金 2 1 , 8 5 2 , 6 0 0 円
4	工 期	令和1年12月11日
5	法人、施設以外からの補助金・助成金の有無	補助団体 無し 補助金額

物品	1 / 1	内 容
1	物品の名称	大型全自动洗濯機
2	購入の理由並びに設置内容の概要	平成9年から使用していた洗濯機が経年劣化により、使用できなくなったため更新購入した。
3	価 領	1 , 8 8 4 , 9 6 0 円
4	納 期	令和2年2月28日
5	法人、施設以外からの補助金・助成金の有無	補助団体 無し 補助金額

令和元年度 事業報告書 (さくや)

1. 事業計画の達成状況

(1) 利用者の自立を目指し、地域において共同して日常生活を営むことができる支援の実施

- ① 障がい特性と知的レベルを考慮し、適切に情報を提供している。その中で、意思表示が困難な利用者には簡単な言葉で質問し「はい」「いいえ」で答えられるように配慮している。
また状況に応じて、実物や絵、身振り手振りを使って伝えるようにしている。これらを繰り返すことで、利用者、スタッフ間に以前にも増して信頼感が生じた。
- ② 家事や就労を得意分野で分担し、それぞれが気持ちよく活躍できるよう配慮している。
また、地域ニーズを探り、できる範囲のことなら全力でボランティアをしている。地域からも感謝されており、利用者の「生きがい」つながっている。これら良質な社会体験を経て将来に対して、ポジティブな展望を持てるようになった。

(2) 地域交流及び地域貢献に関わる活動の推進と障がい者理解に繋がる取り組みを実施

- ① 地元の中学校、小原中学校へ出向き、「給食交流」を定期的に開催している。昼食後にレクリエーションを通じて、親睦を図り、利用者の良いところ、可能性を知って頂く良い機会となっている。障がい者理解について、若い世代に徐々に浸透してきており、今後に期待が持てる状況である。
- ② 地域密着への取り組みとして、毎月、近隣の講師を招いて、さおり織教室を開催している。休憩時間にはカフェタイムを設定し、おもてなしをしている、利用者だけではなく事業所としての魅力も合わせて体感していただき大変好評である。これらの取り組みを経てさくや 자체が地域の中で、安心できる場所であることが認知してきた。

(3) 職員意識及び資質の向上に関わる研修の計画的な実施

- ① 虐待研修に参加し、福祉事業所で起こりえる虐待の線引きについて学んでいる。またその背景にある、スタッフの心理面、労務管理の視点も含め総合的に学んでいる。全体ミーティング等で各スタッフにフィードバックし、危機管理に努めた。
- ② さくや最高齢の利用者について、将来の健康リスクを想定し、高齢者施設への移行に取り組んだ。保護者の同意、本人の意向、受け入れ先等、何度も調整し、無事最後は、送り出すことができた。今後の運営を考えても、適宜、新陳代謝していく必要がある。

2. 利用状況調べ

(入所定員9名)

区分	入 所			退 所							計
	前年度 越年	本年度 入所	計	就職	保護者 引取り	長期 入院	施設 変更	就業訓練所 入 所	里子	死亡	
男	4		4	0	0	0	1	0	0	0	1
女	5		5	0	0	0	0	0	0	0	0
計	9		9	0	0	0	1	0	0	0	

		入所	入所	入所 充足率	実人 員	延人 員	充足率	三種	障害程度区分					
定員	月別								重複障害者	6	5	4	3	2
入所 9	4月	9	270	100.0%			0.0%	1	0	2	5	2	0	
	5月	9	278	99.6%			0.0%	1	0	2	5	2	0	
	6月	9	270	100.0%			0.0%	1	0	2	5	2	0	
	7月	9	279	100.0%			0.0%	1	0	2	5	2	0	
	8月	8	248	88.9%			0.0%	1	0	1	5	2	0	
	9月	8	240	88.9%			0.0%	1	0	1	5	2	0	
	10月	8	248	88.9%			0.0%	1	0	1	5	2	0	
	11月	8	240	88.9%			0.0%	1	0	1	5	2	0	
	12月	8	248	88.9%			0.0%	1	0	1	5	2	0	
	1月	8	248	88.9%			0.0%	1	0	1	5	2	0	
	2月	8	232	88.9%			0.0%	1	0	1	5	2	0	
	3月	8	248	88.9%			0.0%	1	0	1	5	2	0	
	合計	100	3,049	92.6%	0	0	0.0%	12	0	16	60	24	0	
	月平均	8	254		0	0		1	0	1	5	2	0	

(注) 定員充足率および月平均値は、小数点第2位を四捨五入。

・平均障害支援区分は3.8

・8月に高齢利用者1名ADL低下に伴いがサービス付高齢者住宅へ施設移行

令和元年度 事業報告書 （泰山寮）

1 権利擁護に配慮された、安全に安心して生活できる環境作り

虐待防止委員会を中心に、利用者の権利をより意識した支援方法について、施設内での研修及び支援会議の場において職員間で共有することが出来た。また、グレーゾーン的な日常支援場面を見出し、職員間の共通理解に繋げることが出来たものと考える。グレーゾーンについては、基本的には虐待に繋がる或いは虐待であるという認識を職員間で共通理解できたことは、利用者の安心安全な生活を考えるうえで有意義であった。

権利擁護に関する検討は、次年度においても隨時検討して行かなくてはいけない課題であると考える。

2 個々の身体および障害特性に応じた活動の実践

作業療法士の指導のもと（月2回来寮）、利用者個々の身体的特性に応じた生活リハビリを意識した活動（実践）が出来つつある。利用者の高齢化、障がいの重度化を見込んだ取組みを、さらに進めいくことが次年度には求められるものと考える。

利用者の得意とする創作活動においては、その作品を同一法人の大坂ケアハウス内に展示し高評価を受けることができた。また、法音寺内にも常時展示することによって、自閉症の理解にもつなげることが出来たものと考える。その他としては、愛知アールブリュット展を通じて当施設の利用者の作品が愛知県知事室内にも展示がされるなど、日々の活動実践が評価されつつあるものと考える。

3 職員の資質（専門性）の向上

自閉症の専門支援施設として、全職員が強度行動障害支援者養成研修（基礎編・実践編）を受講できるよう研修計画を立案し取り組んだ。その結果として、業務課職員の約8割が基礎編を受講し専門性の向上に寄与することが出来た。（このことは、障がい者重度加算手当の収益向上にもつなげることができた。）次年度は、全職員が当研修を受講できるよう計画を立案して行きたい。

4 働き易い職場環境の確立

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を意識した職場環境の構築が求められているが、思ような成果を上げるには至らなかった。特に時間外労働時間の短縮、それに見合う業務の効率化（省力化）に向けた職員意識の変革の困難さを痛感させられた一年であり、次年度への大きな課題になった。

5 防災防犯意識の向上

奇数月に実施している昭徳会の職員通報訓練の参加率が低く、防災意識の低さを実感せざるを得ない。防災、減災の重要性を再度全職員向けに強く訴えていく必要があるものと考えると同時に次年度の課題としたい。

防災、減災に向けた備蓄用品については、計画に従って順調に整備されつつある。次年度も引き続き予算執行状況を考慮しながら整備していきたい。

6 利用状況調べ

(入所定員 50名)

区分	入 所			退 所							
	前年度 越年	本年度 入所	計	就職	保護者 引取り	長期 入院	施設 変更	就業訓練所 入 所	里子	死亡	計
男	41	1	42	0	0	0	1	0	0	0	1
女	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
計	50	1	51	0	0	0	1	0	0	0	1

		入所	入所	入所 充足率	短期 実人員	短期 延人員	短期 充足率	日中一時 延人員	障害支援区分		
定員	月別								6	5	4
入所 50	4月	50	1,415	94.0%	7	87	36.3%	13	34	13	3
	5月	50	1,445	93.2%	7	91	36.7%	11	34	13	3
短期 8	6月	50	1,427	95.1%	6	89	37.1%	13	36	11	3
	7月	50	1,501	96.8%	6	85	34.3%	10	35	11	3
	8月	50	1,410	91.0%	6	60	24.2%	11	35	11	4
	9月	50	1,479	98.6%	5	55	22.9%	10	35	11	4
	10月	50	1,520	98.1%	5	53	21.4%	8	35	11	4
	11月	50	1,481	98.7%	5	57	23.8%	11	35	11	4
	12月	50	1,482	95.6%	5	56	22.6%	13	35	11	4
	1月	50	1,441	93.0%	5	48	19.4%	15	35	11	4
	2月	50	1,432	98.8%	5	52	22.4%	19	35	11	4
	3月	50	1,550	100.0%	3	38	15.3%	4	35	11	4
集計	合計	600	17,583	96.1%	65	771	26.3%	138	419	136	44
月平均		50	1,465		5	64		12	35	11	4

(注) 定員充足率および月平均値は、小数点第2位を四捨五入。

- ・障害支援区分は1~6まであり6が最重度、入所対象は原則4以上。
- ・年間平均障害程度区分は5.6です。
- ・入所延人員は施設入所支援事業の人数です。
- ・入所の充足率は今年度は5月に帰宅した利用者が多くなり、96.1%と前年度比0.9ポイント減であった。
- ・短期入所は前年度とほぼ同じ利用者数だが、3月は新型コロナウィルス対策で一部受入を停止しました。12.0%のダウンとなりました。
- ・日中一時支援は前年度比73.1%と26.9ポイントの大幅な減少となりました。急なキャンセルや短期入所同様、新型コロナウィルス対策で受入を一部停止したことが主な要因となります。

令和元年度 事業報告書 (のぞみホーム)

1 安心して生活できる環境作り

それぞれの利用者の思いを尊重すると同時に最善の方法を選択できる支援を世話人を中心に実践することが出来たものと考える。今後も利用者の思いを十分に引き出し、満足感をより味わうことの出来る生活環境を提供していくことに重点を置いていきたい。

2 利用者の健康維持と向上

それぞれの利用者の就労先での健康診断の結果をもとに、本体施設の看護員の指示のもと適切な健康管理が出来たものと考える。今後も世話人、職場、看護員の連携を密にしながら健康維持に努めて行きたい。

3 職員の専門性の向上

当ホームとしては、初めてのグループホームの全国大会に参加し、他施設の動向を知ることができた。今後も他県、他施設の状況を見聞する機会を積極的に設け、より良い支援に繋げていきたい。

4 防災防犯意識の向上

定期的な避難訓練（地震・火災等の想定）を行い、それぞれの利用者の防災意識は徐々に身についているものと思われる。現状、携帯電話の使用方法を理解している利用者が2名しかいない為、全員が使用できるようにすることが次年度の課題である。

年度当初の計画であった不審者対応におけるマニュアルは検討することが出来た。その活用について、それぞれの利用者の理解に繋げていくことが次年度の課題であると同時に、より実態（実状）に即した修正を行いより有効的なマニュアルにしていくことが課題であると考える。

5. 利用状況調べ

(定員4名)

区分	入 所			退 所						
	前年越年	本年 入所	計	就職	者 引取	施設 変更	訓練入所	里子	死亡	計
男			0							0
女		4	4							0
計		4	4							0

月別	初日利用人員	充足率	延人員	障害支援区分2		障害支援区分3		障害支援区分4	
				実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
4	4	100	120	2	60	2	60		
5	4	100	124	2	62	2	62		
6	4	100	120	2	60	2	60		
7	4	100	124	2	62	2	62		
8	4	90	112	2	56	2	56		
9	4	100	120	2	60	2	60		
10	4	100	124	2	62	2	62		
11	4	100	120	2	60	2	60		
12	4	91	113	2	57	2	56		
1	4	92	115	2	58	2	57		
2	4	100	116	2	58	2	58		
3	4	100	124	2	62	2	62		
合 計	48	-	1,432	24	717	24	715		
月 平 均	4.0	97.8	119.3	2	59.8	2	59.6		

(注) 充足率及び月平均値は、小数点第2位を四捨五入して下さい。

・ 充足率が前年度98.1%より0.3ポイント下がったのは、年末年始の帰省が増加したため。

令和元年度 事業報告書 （ 放課後等ディサービス たいざん ）

1. 地域および利用者個々のニーズに応じた支援体制の確立

利用契約者数が 28 件になり、日々8~9名の利用があった。このことからも、地域の利用ニーズに十分に応えることが出来つつあるものと考える。また、利用者のニーズに応えるカリキュラム、備品整備も徐々に整えることが出来つつある。今後も関係団体との連携を密にして情報交換を行うと同時に稼働率の向上に繋げていきたい。

2. 子ども達が安心できる居場所の構築

利用者個々の状況に配慮し、サービス内容の個別化を図ることによって、通所を拒否する児童は見られなかつた。また、苦情等の受け付けもなく順調に安心できる場所が構築されつつあるものと考える。自己評価を作成する際の保護者アンケート結果からも、より良い評価を受けており、子ども達にとって安心できる居場所になっているものと考える。

3. 職員の専門性の向上

配置職員数（定員）および日々の職員配置数に制度、運営的な限界があり、外部の研修への参加が厳しい状況であり、今後の大きな課題であると考える。そのような状況に中において、児童発達管理者を中心とした研修会（勉強会）を月 1 回実施し専門性の向上に繋げることが出来た。次年度も継続的に取り組んでいきたい。

4. 利用状況調べ

(利用定員 10名)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
開所日数	平日	12	16	16	12	0	16	18	17	12	16	15	0	150
	休日	8	5	5	10	20	4	4	4	8	3	5	20	96
	計	20	21	21	22	20	20	22	21	20	19	20	20	246
利用者延人數	平日	52	94	112	80	5	131	141	139	98	111	110	0	1073
	休日	14	17	7	62	136	16	12	18	45	14	23	122	486
	計	66	111	119	142	141	147	153	157	143	125	133	122	1559
指標※	区分1	40	65	68	80	74	86	86	90	77	76	79	71	892
	区分2	26	46	51	62	67	61	67	67	66	49	54	51	667
	計	66	111	119	142	141	147	153	157	143	125	133	122	1559

※区分1が指標該当 有(重度) となります。

- ・契約児童数 23人（令和2年3月31日）、地域は豊田市、みよし市、東郷町。
- ・障害状態区分の割合が50%以上（区分1/全体計）となり2年度も報酬区分1-1が適用。
- ・1日の平均利用者数は、平日は7.2名、休日（学校休業日）5.1人となります。
- ・3月は新型コロナウィルス関連で三好特別支援学校が休校となり、全日休日扱いです。また、上記の関連で利用を見合せた利用者が2人おります。
- ・8月の平日利用延べ人数は学校登校日後の利用となります。

5. 施設設備等状況調書

物品 NO	1
-------	---

1. 物品の名称	障害関係入所施設向け記録ソフト費用		
2. 購入の理由並びに設置内容の概要	従前の入所支援業務ソフトは、不具合も多く、最新のOSに対応しないとのこと。 今後の事務効率化を考え、障害者関係施設の小原寮、小原学園とソフトプログラムを共同発注し、泰山寮は今年度導入となった。		
3. 購入金額	金1,328,400円		
4. 購入年月日	令和1年10月1日		
5. 法人、施設以外からの補助金および助成金の有無	有り <input checked="" type="radio"/> 無し	(1) 補助・助成団体名	(2) 補助・助成金額

令和元年度 事業報告書（授産所高浜安立）

1. 障害福祉サービス事業所としてホスピタリティの提供

アセスメントの強化により利用者一人ひとりの要望(作業能力)に応じた作業の提供ができる様取り組んだ。又、重度利用者に対しても、出来ることを作業に取り入れ、座椅子、小物、事業所内装飾と作業の幅を広げるとともに、自立訓練をはじめとした身体介護にも力を入れた。

就労移行に関してはハローワーク等の関係機関や相談支援事業所と連携し企業訪問や職場実習、職場体験等積極的な就労移行事業を展開した。一般就労までは至らなかつたが、本人の希望する事業所への移行を行うことができた。

又、一般社会の中で就労体験を行うために、JA あいち中央と連携し安城市の青梗菜農家と雇用契約を結び定期的に農業の取り組みを開始した。農福連携に関しては国・県・市の障害福祉計画の重点課題となっており、当事業所が農福連携を始めたことで、高浜市の障害福祉計画が波に乗り、授産所高浜安立をモデルとした市民向けの農福連携セミナーが開催された。そしてこの取り組みは西三河地区の先駆的な取り組みとなり多くのメディアで紹介された。

当事業所から一般就労した利用者に対して、就労後のアフターフォロー等、給付外の就労定着支援も積極的に行い、就労者が離職することがない様、企業と就労者の双方を支えることができた。相談支援事業所との連携によりアセスメント及びモニタリングを行い、リアルニーズの抽出をし、事業別会議内でサービス等利用計画に沿った個別支援計画策定に関するケース検討を行い、それに沿った支援を事業所全体で提供することができた。

定期的に利用者会を開催するとともに、行事や作業、休憩の在り方等も利用者会で協議し、情報を職員と共有することにより、利用者にとって働きやすい環境の推進を図ることが出来た。

高浜市の障害福祉施策ニーズである「地域生活支援拠点」整備において、高浜市と協議を重ね、第1段階として相談支援事業所の開設の準備を行った。職員1名を「たかはま市障がい者支援センター」に派遣するとともに、生活支援ハウスの一部を用途変更し、「障がい者支援センター高浜安立」として指定特定障害者相談支援事業及び指定障害児相談支援事業の認可を受け(令和2年4月1日に開設)、高浜市の障害福祉事業に大きく貢献することとなった。

2. 自主製品の販路拡大及び工賃向上

自主製品「ぱりまる」の販売においては取引企業に対する営業及び市内のカフェやサロン等に健康食品として販路を広げた。また、地域や他事業所等への積極的な営業、おとうふ工房いしかわやサンコーのPB商品製造及びSNSの活用により認知度も上がっており、令和1年度は高浜市のふるさと納税の返礼品に単独で選ばれた。

冬季限定の「しょこら」はクリスマスやハロウィン等の期間限定パッケージ及び各種個別ギフトや個別パッケージの作成により付加価値を高め注文が増加した。そして「ぱりまるたません」に関しても、認知度も上がり、地域行事・お寺行事に加え、一般企業からもイベントの出店依頼を多数受けることとなった。

衛生管理においては本年度もしっかりと行うことが出来、販売した商品からのコンタミネーションは1件もなかった。HACCP導入に関しては取得に向けて保健所と連携しHACCP組織の構築を行うとともに設備等の整備を行うことができた。

改正食品表示法における表示変更は栄養価計算や表示方法の変更等を行い、3月末にフォーマット変更を行うことが出来た。

西三河セルフの主幹施設として定期的に西三河福祉の店を開催。令和元年度は高浜市のスーパーマーケットでも初出し、事業所連携により売上向上を行った。

また、他の障がい福祉サービス事業所と連携して、災害用非常食「パン缶」の作業を行い、作業の幅を広げるとともに個別パッケージ作成により売り上げ増となった。

全体の工賃においては、下請け作業の主軸である中庸スプリング(株)と作業内容の検討を行い、今年度も800万円/年の受注を頂くとともに上記のとおり製造販売部門の売り上げ増により、令和1年度の就労支援収入は、昨年度増の2,000万円超となり、工賃においては基本単価が影響する就労

継続支援 B 型事業で月額平均工賃 30,547 円と初の 3 万円越えとなった。

3. 社会貢献事業の推進と地域連携の強化

高浜市の健康自生地活動においては、当事業所に来ることが日課になっている高齢者が増加し、年間延べ人数 1,800 人(平成 30 年度は 1,000 人)の地域高齢者が訪れた。

また、当事業所において認知症カフェを開催し、地域の高齢者にとっても、高齢福祉の重要な拠点となることができた。

地元小学校の事業単元、民生委員を始とする地域ボランティア等の積極的な受け入れ、ハロウインイベントやバレンタインイベント等の地域行事企画等により、地域住民が事業所に気軽に来ていただける体制を構築でき、地域貢献に加え地域共生社会の一端を担うことができた。

一般企業の社員職員研修、地域の障がい者及び高齢者に対し「やりがい、生きがい」の提供のための給付外支援。一般就労につながった地域の障がい者に対し給付外での就労定着支援、地域行事への積極的な参加、地域自立支援協議会及び行政主催行事(わくわくフェスティバル等)への職員派遣、地域の特別支援学校及び特別支援学級の生徒の職業訓練実習等を積極的に行ない、地域貢献及び社会貢献につながった。

又、風水害一時避難所として高浜市と契約、令和 1 年度は台風接近時に 2 度避難所を開設し、合計 3 世帯 4 名の地域住民を受け入れ地域貢献につながった。

4. 職員の資質向上と職場の環境整備

OJT の推進により職員個々の資質の向上とチーム力の向上を図るとともに、OFF-JT により全職員が担当部署に対する専門研修に参加したことにより専門知識の向上を図ることができた。

事業所内においては、職員会議で事業経営に関する勉強会を行い、給付費を中心に加算や工賃、そして仕入れ原価や減価償却等について説明及びワークショップを行った。職員一人ひとりが経営意識を持ち、担当している部署の収支を考えられる良い機会となった。

そして支援においては、近年苦慮している精神障がい者に対する支援について、精神障がい者専門に事業を行っている事業所の職員を招き講演会を開催し、精神障がい者支援に対する理解を深めた。サービス向上委員会による虐待防止キャンペーンを毎月実施するとともに、自己振り返りシートを活用し障害者虐待に対する意識の向上と職員の共通理解を図った。

福祉サービス第三者評価は実施していないが、第三者評価の自己評価を職員全員で実施し事業所の課題等を共有し改善に向けて検討を行った。

西三河福祉の店及び西三河商品交換会、西三河職員研修会の主幹を務めることにより、多角的スキルの向上に加え、調整力、責任性、協調性そしてリーダーシップの向上にもつながった。

地域で暮らす障がいを持つ保護者の悩みである「親亡き後」について、保護者会と連携して、他の事業所 GH の見学会を開催し、当事業所として将来的に地域の障がい者をどのように支えていけるのかを考える良い機会となった。

5. 安定した事業経営

本年度は日中一時支援(お仕事体験)を利用して特別支援学校や地域の中学校から 7 名の利用者と契約を行ったものの、3 名の利用者が事業所変更、1 名の利用者が日中一時支援に事業変更となり、また、利用者 2 名が病気やけがによる長期入院により出勤率が下がった。しかし、令和元年度は台風や積雪等による事業所休業がなかったこと及び利用者ニーズに沿った作業(仕事)の提供により、長期入院者以外の利用者の出勤率は上がり、年間の稼働延べ人数は増え、基本給付費も昨年度に比べ増加した。

また、正規職員を減らし非常勤職員を増やしたことにより、人件費率が下がり、職員数が増え適正な人員配置及び経費の削減となった。収入では目標工賃達成指導員配置加算、就労移行支援体制加算、就労支援関係研修終了加算、欠席時支援対応加算等、取得できる加算を積極的に取得し給付費の増加に尽力した。そして就労支援 B 型事業においては、基本単価が平均月額工賃となるため、工賃向上の取り組みを積極的に行ない 3 万円～3 万 5 千円の基本単価にあげることができた。

しかしながら、今後の課題として生活介護事業と就労継続 B 型事業に関しては定員を超過しているため、高浜市在住の特別支援学校等に通う障がい児が進路先として当事業所を希望されても受けら

れない状況であるため、事業所運営を検討していく必要がある。

防災に関しては定期的な避難、通報、防災訓練に加え、高浜地区主催の「防災フォーラム」を行政と連携し開催することができた。また、災害対策検討PJ主催研修で学んだB72を基にした防災図上訓練の実施、全職員対象の普通救急救命講習を行うとともに、大規模災害時用のBCPを策定したことにより防災、減災意識の向上及び防災・減災に対する仕組み作りを行うことが出来た。

開設21年が経過し、建物や設備も老朽化が進み、計画的に大規模修繕を行う必要があるため、施設整備等補助金を計画的に申請、令和1年度は屋上防水工事を行い、総額12,600,000円の予算中9,480,000円を補助金で行うことができ支出を削減することが出来た。

6. 利用状況報告書

授産所高浜安立利用状況（定員52名）

令和1年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約者数	56	56	56	56	57	56	56	56	56	56	56	56	673
稼働日数	22	21	21	24	18	22	24	22	21	21	21	23	260
稼働延べ人数	1,232	1,176	1,176	1,344	1,026	1,232	1,344	1,232	1,176	1,176	1,176	1,288	14,578
出勤延日数	1,082	1,040	1,055	1,195	878	1,097	1,201	1,085	993	998	981	1,065	12,670
欠勤延日数	150	136	121	149	148	135	143	147	183	178	195	223	1,908
利用の無い者								1				1	2
充足率(%)	88%	88%	90%	89%	86%	89%	89%	88%	84%	85%	83%	83%	87%

利用者の状況(令和2年3月31日現在)

年齢	18才未満	18~19才	20~29才	30~39才	40~49才	50~59才	60才以上	計
男	4	1	16	6	6	2	1	36
女		3	3	6	5	3	0	20
計	4	4	19	12	11	5	1	56

療育手帳判定区分(令和2年3月31日現在)

区分	A	B	C	身障手帳	計
男	25	7	3	1	36
女	14	6	0	0	20
計	39	13	3	1	56

障害者自立支援法における障害程度区分(令和2年3月31日現在)

区分	1	2	3	4	5	6	未判定	計
男	0	0	4	10	2	1	19	17
女	0	0	3	4	3	3	7	13
計	0	0	7	14	5	4	26	56

作業収益（平成30年度と令和元年度の比較）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30	1,404,936	1,493,660	1,512,148	1,446,058	1,134,269	1,766,859	1,907,300	1,766,733	1,496,843	2,038,756	2,332,519	1,827,234	20,127,315
R1	1,388,328	1,459,994	1,744,468	1,338,925	1,154,717	1,446,770	1,656,382	1,895,104	1,667,259	2,165,263	2,361,422	2,047,727	20,326,359
増減	▲16,608	▲33,666	232,320	▲107,133	20,448	▲320,089	▲250,918	128,371	170,416	126,507	28,903	220,493	199,044

日中一時支援事業利用状況報告書

月別利用状況（定員4名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	46	30	35	58	42	52	42	37	34	36	39	46	497

夏休みや冬休み等の長期休暇及び祝日を利用して、将来の進路の参考にしていただくために、各種下請け作業やぱりまる製造作業を体験してもらうお仕事体験（特別支援学校生徒向け）、買い物や施設見学等の外出を行い、生活の幅を広げるための余暇支援、及び保護者の休息（レスパイト）を目的として日中一時支援事業に積極的に取り組んできた。

しかし新規契約者の減少及び余暇支援のキャンセル、そしてコロナウィルス感染症の影響により、昨年度の636人から497人に利用者数は減少した。

7. 施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	屋上防水工事		
2. 修繕工事の理由並びに設置内容の概要	施設開設21年を経過し、屋上の床塗装が剥げ、排水溝周りの防水シートが剥げた周りには草が生えて排水できない状況となっていた。その都度、草取り等を行な対応していたが、台風等の風雨の激しい時には、各所で雨漏りが発生しており、業者に調べてもらったところ、屋上の防水シート及び防水塗装の劣化が原因とのことであったため、屋上防水工事を行った。		
3. 修繕工事費	12,650,000円		
4. 完了年月日	令和1年12月31日		
5. 法人、施設以外からの補助金および助成金の有無	有り 無し	(1) 補助・補助団体名 社会福祉施設等施設整備補助金 (2) 補助・助成金額 9,480,000円	

令和元年度 事業報告書（グループホーム高浜安立）

1. 地域に根ざした施設作り

地域のゴミ収集などへの立ち会い、自主的なゴミ回収、地域の防災訓練への参加等により、地域の人と交流するとともに地域住民としての役割を果たすことができた。

2. 社会的自立の促進

自室の管理(掃除、整理整頓)、洗濯、配膳等、自分たちでできることは自分たちで行っており、又、外食や日用品の買い物においても利用者のみで行くことができるようになってきた。食事の準備片付け、風呂掃除等は皆で協力して行い協調性の向上につながった。
1名の利用者に関しては高浜安立荘の清掃及び厨房業務のサポートを行うとともに、地域自立生活に向けての取り組みを積極的に行うことが出来た。

3. 余暇活動の充実

防災フォーラムや地域の夏祭り等の行事及び地域清掃活動等に積極的に参加し、楽しみながら地域住民と交流を深めることができた。
8月には外食会、12月には忘年会をバックアップ施設の職員と行い楽しむことができた。
10月に利用者、職員、保護者参加による「GH さくや」「のぞみホーム」との交流会(バーベキュー)を行い楽しい時間を共有することができた。

4. 安心安全な防災体制の確立

バックアップ施設の授産所高浜安立と協力し、定期的に避難訓練等を実施した。そのため利用者同士の安否確認や避難など、スムーズ且つ自主的に行なえるようになってきた。また9月に、高浜地区で開催した、高浜市民向けの「防災フォーラム」に、グループホームの利用者も参加し、色々な防災体験をすることにより、防災意識を高めることができた。

5. GH 利用状況報告書

区分	入 所			退 所					次年度 繰越
	前年繰 越	本年入 所	計	就職 (家庭)	施設等 変更	家庭	死亡	計	
男	3	0	3	0	0	0	0	0	3
女	1	0	1	0	0	0	0	0	1
計	4	0	4	0	0	0	0	0	4

月別	初日 在籍 人員	充足率	延人員	障害程度区分判定				療育手帳判定			備考
				1	2	3	4	A	B	C	
4	4	95%	95		3		1	3	1		
5	4	96%	92		3		1	3	1		
6	4	95%	95		3		1	3	1		
7	4	96%	104		3		1	3	1		
8	4	96%	77		3		1	3	1		
9	4	94%	99		3		1	3	1		
10	4	93%	100		3		1	3	1		
11	4	96%	96		3		1	3	1		
12	4	95%	91		3		1	3	1		
1	4	97%	89		3		1	3	1		
2	4	94%	90		3		1	3	1		
3	4	90%	97		3		1	3	1		
計	48	95%	1125		36		12	36	12		
平均	4	95%	93.7		3		1	3	1		

* 充足率は開所日に対する数値。

令和元年度 事業報告書 （ 安立荘 ）

1. 理念および基本方針、行動指針などの一層の理解を進め、職員育成を図る

- (1) 毎日の朝礼時において周知は行ったが、それのみでなく施設内研修にて社会人基礎力の一環としても指導。実践している職員に対し感謝の言葉をかける習慣を作った
- (2) 法人からの要望も含め、コンプライアンス研修を職員全員対象に実施。施設内リスクマネジメントに対しての意識向上を図った
- (3) 年間を通して職員不足が常態化した今年度において、キャリアを生かし不足人員を補う業務体制の構築や役職者にてキャリア不足の職員に対しての OFF-JT 指導を徹底した

2. 現状の職員体制や施設環境に応じ、入居者への高品質なケアサービスの提供をする

- (1) 職員体制の脆弱化、およびケアに対しての指導環境が整わなかったことも影響し、入居者への事故件数を大幅に減らすことは叶わなかった。さらにヒヤリハットの件数は減っているものの、これは事故に対する意識の低下による事が原因と思われ課題が残った
- (2) 業務の負担感を理由として、基本ケアの統一や記録作成など基礎的な業務の成長が見られなかつた。中間で立直しを試みたが期待ほどの成果は得られなかつた。次年度はプロジェクト化して対応を検討する
- (3) 介護補助機器の導入実用化は進むもそれ以外の IT 化された改善には着手できなかつた。次年度に向けて家族あての WEB ツール導入や介護システムの利用強化などを進める
- (4) 外国人技能実習生を 2 名採用したため、今年度 8 月の入職時期に合わせ、指導員の免許取得、行政への支援強化などを進めた。OJT のチェック表も作成することができた

3. 働き方改革見直しの一方で地域貢献の拡充を意識し各種業務のエフィシェント化を進める

- (1) みよし市との共同事業「懐かし思ひ出列車」を前後期に分けて実施し、施設における地域貢献の柱とすることが継続できた。
- (2) 勤怠管理の意識向上については定期的な指導や周知により働き方関連法案における有休義務化日数以上の取得は達成。一方施設全体の残業としては一部の職員において業務過多を原因として軽減することができなかつた。引き続き業務改善が課題として残った
- (3) 当初予算計上していなかつた工事も複数あつた。施設設備の老朽化については予想以上に加速し天井ガラスのひび割れやトイレ改修に着手。次年度に回避した修繕も多くある。
- (4) 職員の健康管理については看護員を中心に丁寧なコミュニケーションを図ることができ大きな健康被害はなかつた。

4. 財務体質の再構築および安定化を図る

- (1) 入居稼働率については前年度稼働調整の影響が前半残り 92, 8%に留まつた。一方で短期入所事業においては目標を 3%超え 78%となつた。人件費については目標の 70%以内に留めることができた。
- (2) 予算管理については慎重な管理のもと、大幅な積立金計上も叶い順調な執行ができた

令和1年度利用者状況報告書

(定員80名 : 短期入所8名)

区分	入 所			退 所			
	前年繰越	本年入所	計	入院	保護者引取	死 亡	計
男	人 17	人 14	人 31	人 7	人 0	人 0	人 7
女	46	20	66	0	0	12	12
計	63	34	97	7	0	12	19

月別	特 別 養 護 老 人 木 一 ム			短 期 入 所 生 活 介 護			備 考
	実利用人員	延利用人員	充 足 率	実利用人員	延利用人員	充 足 率	
4月	人 75	人 1,959	% 81.6	人 26	人 239	% 99.6	
5月	71	2,206	89.0	24	201	81.0	
6月	68	2,300	95.8	20	172	71.7	
7月	66	2,339	94.3	21	165	66.5	
8月	65	2,298	92.7	23	213	85.9	
9月	65	2,302	95.9	20	162	67.5	
10月	67	2,346	94.6	20	194	78.2	
11月	65	2,292	95.5	18	180	75.0	
12月	67	2,378	95.9	22	195	78.6	
1月	65	2,257	91.0	26	222	89.5	
2月	66	2,124	94.8	18	163	72.8	
3月	65	2,360	95.2	18	177	71.4	
合 計	805	27,161		256	2,283		
平均	67		93.0	21		78.2	

施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	トイレ改修工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	ななくさ棟男性トイレは開所からの状態であり、床の黒ずみから異がすること、仕切りがカーテンによりプライベートが守られにくいとなっていた。便器周り空間も狭いため介助しづらい状況でもある入居者と職員が安全で快適に利用できる整備は必要不可欠と判断し昨年に引き続き工事を実施した。	
3. 修繕工事費	1,900,000円	
4. 完了年月日	令和1年10月30日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

修繕工事 NO	2
---------	---

1. 名 称	のどか棟個室模様替え工事（個室8部屋）	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	建物・設備等の老朽化及び使いづらい構造が目立つ中、入居者の居住空間である居室についても例外ではない。床シートが変形して隙間や浮いている箇所があるため転倒リスクがあること、また、壁や天井も黒ずみ、窓も開きにくい状況であった。入居者にとって安全で快適に利用できる環境整備は必要不可欠と判断し、工事を実施した。	
3. 修繕工事費	1,200,000円	
4. 完了年月日	令和1年11月30日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

修繕工事 NO	3
---------	---

1. 名 称	機械浴室ガラス屋根復旧工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	機械浴室の鉄線入りガラス屋根が経年と鉄線の影響により数ヶ所がひび割れ、割れ目がずれてきているのを発見した。 ガラス屋根の落下の危険性もあり、安全性を考慮し緊急で破損取替工事を実施した。	
3. 修繕工事費	750,000円	
4. 完了年月日	令和2年2月29日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り <input type="radio"/>	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

修繕工事 NO	4
---------	---

1. 名 称	2階トイレ給排水管復旧工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	2階トイレ内の便器取替工事を開始したところ床下が地盤沈下して、 その影響で給排水管が折れて、漏水及び汚物散乱蓄積された状態 であることが判明した。 このままでは、漏水により水道代が高騰するだけでなく、地盤沈下 範囲も広がり、被害が拡大する恐れがあるため安全性を考慮し、 緊急で復旧工事を実施した。	
3. 修繕工事費	3,498,100円	
4. 完了年月日	令和2年3月31日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り <input type="radio"/> 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

令和元年度 事業報告書 (高浜安立荘)

1. 事業計画の達成状況

(1) 安定経営による財政基盤の確立を目指す。

- ① 上半期の稼働率平均は 96.03%で退所後すみやかな入所に努めた。今年度は入院が多く、12月には 98.12%を達成したものの年間では 96.3%となり目標値に届かなかった。稼働率増の対策としては、入院中の空きベッドを活用して定員数以上の入所を確保する対策等に努めた。
- ② 昨年度同様、人員不足の中で新年度を迎えたが、中途職員の採用を積極的に進めながらグループケアの維持に努めた。自立支援介護・回想法・外出・おやつ作り・運動会・施設内喫茶（長寿茶屋）・施設内居酒屋（鶴屋）等、各グループの独自性を發揮しながら継続している。

(2) 地域に信頼される施設づくりのため社会貢献事業を推進する。

- ① 12月1日に「第9回高浜安立荘市民公開セミナー」を開催した。今年度は、北海道医療大学名誉教授の石垣靖子先生を講師にお招きし、「誰もが迎える最期のとき～大切にしたいものは何ですか～」のテーマで開催した。当日は、パネルによる施設紹介に加え、もしもの時の話として考えるゲーム「もしバナゲーム」を会場全体で行った。
- ② 日本福祉大学における講義では、当該職員が11月13日には講師を務めた。職業安定所から依頼のある職業講話については、愛知県立豊田高等学校と名古屋市立西陵高等学校の2校で講師を務めた。また、藤田医科大学における講義については、11月5日と12月3日に講師を務めた。このほか、同大学においては、毎年恒例になっている理学療法・作業療法学科4年生の全学生を受け入れ、講義と実技体験の対応を行った。
- ③ 市民団体「渡し場かもめ会」の活動に参加し、清掃活動及び地域の祭りの運営に協力した。芳川町内会や吉浜まちづくり協議会の会議にも参加し、行事の運営にも協力した。また、地域の行事では施設の取組み紹介や利用者の作品展示のコーナーも設けていただいた。
- ④ 日本福祉大学の来島修志先生に講師を依頼して、市民向けの回想法リーダー養成講座とフォローアップ研修を開催した。訪問回想法は毎月実施でき、地域にボランティアとして関わる機会が増えていく。高浜市社会福祉協議会が管理をしている市内の5つの宅老所から回想法の実施依頼があり、年間11回取り組むことができた。
- ⑤ 認知症キャラバンメイトの活動として、高浜市との協働により民間企業を対象とした認知症サポート養成講座を開催した。
- ⑥ 高浜市内で展開している認知症予防事業である「コグニタウン事業」に運営スタッフとして参加し、国立長寿医療研究センターの活動にも協力した。
- ⑦ 年10回の開催を計画していた「認知症カフェ」は、新型コロナウィルスの影響で中止した3月を除き予定通り実施できた。毎回新しい参加者がおり、カフェから訪問回想法につなげ、そして在宅サービスに繋がった事例も生じている。

(3) 施設の特色を強化し、良質な福祉サービスを提供する。

- ① 利用者の「夢」(Make a wish)をかなえるために季節の外出や、誕生日外出及び自宅への外出泊等ご家族とも調整をしながら個々の希望に沿ったサービス提供を実施できた。
- ② イベント食や外食、出前などで常食を食べていただく機会を設け、摂取状況の把握に努めることで常食への移行に努めた。また、体調に合わせて適切に食事形態の変更を行い、必要な栄養量を摂取できるよう継続して多職種で話し合っている。
- ③ 栄養ケアマネジメントのモニタリングも兼ねて、2週間ごとに各デイルームに管理栄養士が出向き摂取状況の把握を行った。そこで問題のあるご利用者にどのような対応をしていくか、多職種で話し合いを行い対応できた。
- ④ 毎月の回想法委員会において、リーダーとコ・リーダーの実践を来島修志先生と委員が見学し、その内容を振り返ることで学びを深めることができた。
- ⑤ 在宅入所相互利用の取組みでは、利用者減により1床2名の利用にとどまった。月1回のサービス担当者会議を開催し、在宅サービス事業所との情報共有に努めた。

- ⑥ 高浜市からの依頼により、高浜市内介護事業所向けの研修会を当施設が主体となり計画した。入浴講習会とコーチング研修基礎編のほか、高浜市からの追加要望があり、アンガーマネジメント研修とコーチング研修応用編も実施した。
- ⑦ 今年度も積極的に看取りケアをすすめ、引き続き、職員及びご家族からのアンケート結果からの反省点を今後につなげられるように振り返りを行っている。

(4) 人材育成の方針に基づく人材育成により職員の資質向上を図る。

- ① 職員の資質向上のため、職員面接開始前の時期にサブリーダー以上の役職者を対象としてコーチング研修を実施した。講師は、引き続き(株)コーチングシステムズの稻垣友仁氏に依頼している。今年度は高浜市からの依頼で3回中2回は市内事業所にも声をかけ共同開催とした。
- ② 自立支援介護に関するデータ収集と考察については、毎月の委員会で全員のデータを報告し、困難事例については週1回のカンファレンスで検討を繰り返している。こまめに経過を把握し対策を見直すことが、職員の介護力の向上に繋がっている。
- ③ 外部に向けた報告・発表の機会については、福祉実践発表会で栄養士が発表し、見事優秀賞を受賞した。愛知県老施協主催の大会でも発表を予定していたが、新型コロナウィルスの影響で中止となつた。また、当施設3人目となる自立支援介護・パワリハ学会の認定講師養成の研修において、施設の取組みを発表した結果、見事合格することができた。

(5) 防災及び防犯への危機管理体制を確立する。

- ① 日本福祉大学に協力していただき作成した「B72」ガードゲームを10月11日の職員全体会議で紹介した後、10月21に実施した法人全体の防災訓練で実践した。
- ② 年間計画に沿って実施して、津波や火災を想定した防災訓練を計画的に実施できた。
- ③ 地域連携の強化を図るために、町内会の会議に毎回参加し情報共有に努めている。また、9月21日には「防災フォーラム」を実施し、協働実施した。
- ④ 防犯への意識を高めるために防犯訓練を継続実施している。

(6) 「自立支援介護」に特化した外国人技能実習生制度を活用する。

- ① 7月よりベトナムからの「自立支援介護」に特化した介護技能実習生を受け入れている。また、来年度の対象者についても4名の面接が終了している。

2. 利用状況一覧

(定員120名)

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
		日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	29	31		
H31施設の定員		120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	1,440	120
① 在入所者数推移の概要	令和元年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	実利用者数	122	122	121	121	123	123	121	120	121	120	120	122	1,456	-
	月間延日数	3660	3782	3630	3751	3813	3690	3751	3600	3751	3720	3480	3782	44,410	-
	月間請求日数	3405	3597	3482	3566	3569	3470	3595	3482	3650	3579	3335	3548	42278	-
	充足率	94.6	96.7	96.7	95.9	95.9	96.4	96.6	96.7	98.1	96.2	95.8	95.4	1155.1	96.3
② 実利用者数(名)	令和元年度	122	122	121	121	123	123	121	120	121	120	120	122	1,456	121.3
	市内(再掲)	86	86	85	84	85	85	83	81	83	83	84	86	1,011	84.3
	市外(再掲)	34	34	36	37	38	38	38	39	38	37	36	36	441	36.8
	平均介護度	令和元年度	3.77	3.79	3.81	3.86	3.84	3.84	3.84	3.86	3.87	3.88	3.87	3.89	46.12
③ 新入所者数(名)(再掲)	令和元年度	2	2	2	1	4	2	2	1	5	1	2	4	28	2.3
	市内(再掲)	0	1	2	0	3	2	1	0	4	1	2	3	19	-
	市外(再掲)	2	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	1	9	-
④ 退所者数(名)(再掲)	令和元年度	2	3	1	2	2	4	2	4	2	2	1	5	30	2.5
	市内(再掲)	1	3	1	2	2	3	2	3	1	1	1	3	23	-
	市外(再掲)	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	2	7	-
⑥ 空床理由	令和元年度	255	185	148	185	244	220	156	118	101	141	145	234	2132	178
	入院期間	185	96	90	115	135	101	118	21	23	114	92	86	1176	98
	外泊期間	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0
	退所後期間	27	46	15	53	38	77	5	89	20	10	12	91	483	40
	入所迄期間	43	42	43	17	71	42	33	8	58	16	41	57	471	39

3. 施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	個室改修工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	昨年度多床室のプライバシー保護のための改修工事を実施。 (上記については介護施設等整備事業費補助金交付) 個室は補助金対象外であったため新たに多床室と同様のしつらえ とし、利用者の居住環境の質向上を図った。	
3. 修繕工事費	20, 304, 000円也	
4. 契約年月日	平成30年12月20日	
5. 法人、施設以外からの補 助金および助成金の有無	有り <input checked="" type="radio"/>	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

修繕工事 NO	2
---------	---

1. 名 称	1階居室(107号室)空調衛生設備修繕	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	経年劣化に伴う空調機器(ファンコイル)の故障による 修繕。	
3. 修繕工事費	820, 800円也	
4. 契約年月日	令和1年7月18日	
5. 法人、施設以外からの補 助金および助成金の有無	有り <input checked="" type="radio"/>	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

修繕工事 NO	3
---------	---

1. 名 称	技能実習生宿舎工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	技能実習生(ベトナム4名)宿舎の居室及び水回り、電気工事等 住環境整備のため。	
3. 修繕工事費	5, 940, 000円也	
4. 契約年月日	令和1年7月11日	
5. 法人、施設以外からの補 助金および助成金の有無	有り <input checked="" type="radio"/>	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

修繕工事 NO	4
---------	---

1. 名 称	館内照明器具LED化工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	現照明機器が将来見込みとして交換工事ができなくなる見込み である。LED化にすることで利用者の生活環境も明るくなり、 コスト削減にもつながるため更新整備を行ったもの。	
3. 修繕費(リース資産)	13, 557, 732円也	
4. 契約年月日	令和2年1月27日	
5. 法人、施設以外からの補 助金および助成金の有無	有り <input checked="" type="radio"/>	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

物品 NO	1
-------	---

1. 物品の名称	施設内ネットワーク ファイルサーバー	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	施設内ネットワーク ファイルサーバー契約満了に伴う更新整備。	
3. 購入費(リース資産)	1, 530, 579円也	
4. 購入年月日	令和1年9月16日	
5. 法人、施設以外からの補 助金および助成金の有無	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

物品 NO	2
-------	---

1. 物品の名称	業務用冷凍庫、冷蔵庫の更新	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	導入してから15年が経過し、老朽が激しいため冷凍庫1台、冷蔵庫1台を更新した。	
3. 購入費	972, 000円也	
4. 購入年月日	平成31年4月30日	
5. 法人、施設以外からの補 助金および助成金の有無	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

物品 NO	3
-------	---

1. 物品の名称	全自动汚物除去機	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	導入してから15年が経過し、経年劣化による故障で使用できなくなつたため更新整備を行った。	
3. 購入費(リース資産)	671, 000円也	
4. 購入年月日	令和2年3月13日	
5. 法人、施設以外からの補 助金および助成金の有無	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

物品 NO	4
-------	---

1. 物品の名称	デマンド管理システムの更新	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	契約期間(7年)満了に伴う更新整備	
3. 購入費(リース資産)	671, 000円也	
4. 購入年月日	令和2年3月13日	
5. 法人、施設以外からの補 助金および助成金の有無	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額

令和元年度 事業報告書（高浜安立荘デイサービスセンター）

1. 事業計画の達成状況

- (1) 利用者の個々の在宅生活を把握し、日常生活との継続性を重視したケアを実施する。
- ①サービス担当者会議で、ご本人およびご家族の意向を聞き、通所介護計画書にデイサービスでの活動、支援の目標を明確にして作成している。
 - ②認知症ケアを強化したデイサービス（『回想法・学習療法・パワーリハビリテーションのできるデイサービス』）として取り組んでいる。学習療法、パワーリハビリテーションは3か月ごとに評価できており、個別の目標を立ててご本人、職員が意識しながら行うようにしている。
 - ③自立支援・重度化防止の推進を目指し、新たな加算である「ADL維持等加算」を算定している。
また、サービス提供体制加算もIへ変更し、単価増にも努めている。
- (2) 利用者の確保に努め、安定した経営を図る。
- ①居宅介護支援事業所との繋がりを強化し、事業所の情報伝達と利用者の情報共有を図り、新規利用者の獲得に努めている。また、毎月の利用状況をサービス担当者会議で情報共有している。
 - ②1日あたりの平均利用者数は、上半期は平均25.0名であったため下半期においては利用者確保に努め、年間を通して25.8名まで引き上げたが目標値までは達しなかった。
- (3) 「職員行動指針」の実践により、より良いサービスの提供と働きやすい職場環境を構築する。
- ①「職員行動指針」を日々の業務に置き換えて考えられるように具体化し、職員が意識して行動するために毎日の朝礼で唱和し意識付けをしている。
 - ②職員同士がコミュニケーションを深め、褒め合い、注意し合える関係作りを推進するために、月に1回（営業休みの日曜日）、常勤職員のミーティングを実施している。
 - ③各種委員会活動において、関係する各種マニュアルを見直し業務改善に努め、利用者へのサービス向上および職員の業務による負担軽減に努めている。
- (4) 地域に信頼される事業所づくりのために社会貢献活動を強化する。
- ①11月に開催された高浜市主催の「高齢者を支える家族の集い」・「わくわくフェスティバル」に参加し、事業所の強みを地域にアピールする事ができた。
 - ②例年開催されている高浜市内通所介護事業所の合同作品展や吉浜まちづくり協議会主催の「ふれあいフェスタ」へ出展した。
 - ③「健康自生地」として、健康な市民の介護予防の一助となるために回想法を体験できる機会を提供している。また「昭和で元気になる会」に協力し、認知症カフェや訪問回想法にも協力した。
- (5) 防災及び防犯への危機管理体制を確立する。
- ①デイサービスセンターに特化した「災害時における送迎中の対応マニュアル」を作成するとともに、図上訓練等を実施した。
 - ②災害対応力向上のために外部研修に参加し、知識を深めながら「施設マニュアル」を整備した。
 - ③高浜安立荘と連携して津波や火災を想定した防災訓練を計画的に実施しており、振り返りを行うことでさらに非常時の対応がスムーズに行えるようにしている。
 - ④地域連携の強化を図るとともに、9月21日に開催された「防災フォーラム」に協力した。
 - ⑤高浜安立荘と連携して防犯訓練を行っている。同様に身体拘束や虐待防止の研修にも連携しながら参加し、就業規則や服務規程を活用した人材育成に努めている。
- (6) 外国人技能実習制度を活用し、安定的な人材確保に繋げるとともに国際貢献に寄与する。
- ①インドネシアからの介護技能実習生を2月に受け入れ、安定的な人材確保に繋げるとともに国際貢献に寄与している。

2. 利用状況報告

(1) 稼働日数

(単位：人)

月 項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
稼働日数	26	27	25	26	25	25	26	26	26	25	25	26	308
利用者延べ数	610	629	610	654	644	680	711	690	682	686	674	686	7,956
1日平均利用者数	23.5	23.3	24.4	25.2	25.8	27.2	27.3	26.5	26.2	27.4	27.0	26.4	25.8
利用者実人数	64	66	69	69	71	79	77	76	76	78	80	77	882
入浴提供総数	440	446	424	457	434	480	485	467	457	455	464	460	5,469
食事提供総数	610	629	610	654	644	680	711	690	682	686	674	686	7,956
新規利用者数	2	4	1	2	5	7	0	2	3	5	5	2	38

(2) 年齢階層 (R2.3.31 現在)

(単位：人)

	~64才	65~69才	70~74才	75~79才	80~84才	85~89才	90才~	合計
男性	0	2	5	1	4	4	2	18
女性	1	0	1	10	9	21	17	59
合計	1	2	6	11	13	25	17	77

(3) 令和元年度要介護度別利用数

(単位：人)

	総合事業	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
延べ人数	248	450	944	3,401	1,499	802	399	213	7,956
比率	3.1	5.7	11.9	42.7	18.8	10.1	5.0	2.7	100

(4) 要介護度実利用数 (R2.3.31 現在)

(単位：

人)

	総合事	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
男性	1	2	3	6	5	1	0	0	18
女性	5	5	10	20	9	5	3	2	59
合計	6	7	13	26	14	6	3	2	77
比率	7.8	9.1	16.9	33.8	18.2	7.8	3.9	2.6	100

※事業対象者で要支援Ⅰ・要支援Ⅱの認定者は事業対象者で記載。

3. 施設設備等状況調書

物品 NO	1
1. 物品の名称	公用車(タント)中古車購入
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	従来の送迎車輛(ワンボックスタイプ リース車両)のリース期間 が13年を超過。現状の送迎事情では軽自動車での送迎が効率的 であるため交換整備したもの。
3. 購入費	680, 000円也
4. 購入年月日	令和1年7月30日
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	<p>有り <input checked="" type="radio"/> 無し</p> <p>(1)補助・補助団体名 (2)補助・助成金額</p>

令和元年度 事業報告書 (いこいの宿高浜安立)

1. 事業計画の達成状況

(1) 高品質なケアサービスの提供によりご利用者に“選ばれる”事業所を目指す。

- ①事業所内で週1回ご利用者に対して回想法を提供し、定期利用者2名に対してプログラムを作成して実施することができた。
- ②高浜安立荘の在宅入所相互利用ご利用中の2名(各ユニット1名ずつ)の在宅時の受け入れを実施しており、自立支援介護に基づいた水分量の確保、歩行訓練を実施することができた。
- ③外出企画として花見、バラ園、花菖蒲への外出を実施した。昨年に引き続き、蕎麦打ち、民謡、フラダンス、オカリナ演奏、ハーモニカ演奏のボランティア団体にご協力をいただいた。さらに今年度より高浜地区の昔の写真資料を現在と比較しながら見ていただくアーカイブスや、ホルン演奏、将棋といった新たなボランティアの方々にも参加していただいたが、新型コロナウイルスの影響により3月から全てのボランティアの受け入れを中止している。
- ④『利用満足度調査』をご家族、ご利用者95名、居宅支援事業所24か所(ケアマネージャー47名)を対象として10月初旬に調査票を配布している。回収率は52%であり、80点以下の項目についてユニット内で検討し、調査結果とご意見についてまとめたものを返送している。

(2) 対人援助職としての資質及び専門性を自ら高める。

- ①昨年度に引き続き、ユニット会議内で各職員が講師役となって勉強会を開催し、高齢者虐待、身体拘束、BPSDへの対応、接遇、移乗の勉強会を開催した。
- ②地域貢献活動として、渡し場かもめ会、町内会活動などを中心に8種類、32回の活動に参加了。ハチドリチャレンジは全職員が100%達成することができた。
- ③高浜安立荘主催のコーチング研修に常勤職員が参加。法人の初任者研修、専門研修にも参加了。非常勤職員は、高浜市主催の現任職員研修に2名参加することが出来た。
- ④「昭和で元気になるカフェ」での回想法実践の際、リーダー役として回想法委員を派遣して実践経験を積んでいる。ハチドリチャレンジとして非常勤職員が参加するなどその幅が広がっている。

(3) 利用者にとって“過ごしやすく”職員にとって“働きやすい”事業所を構築する。

- ①両ユニットの共有部分のプライント等の修繕を実施した。各ユニットで計画的に空調の清掃、敷地内の除草作業を行った。
- ②常勤職員9名中、1週間連続休暇を8名が取得している。また、今年度より義務化された年次有給休暇の取得については、全職員が5日間以上取得している。また、嘱託医師による腰痛予防の勉強会を開催し、全員が参加することができた。
- ③入所受け入れ時に荷物チェック作業において、専用のアプリを導入し業務の省力化を図った。写真撮影を中心に行うことや、入退所時の確認作業の時間短縮化に努めている

(4) 稼働・経営目標：一日平均17.5名（年間延べ6,400日）

- ①今年度の稼働率は15.8名（79.2%延べ5,796日）。サービス付き高齢者住宅等の増加により利用から入所への期間が短くなっている。要支援、知的障害者の利用は増加している。人員面では派遣職員も含め3月末で常勤換算数10.7名であった。【定員：介護・看護職員=1.9:1】
- ②ホームページの空き情報及び余暇活動予定は定期的に更新している。閲覧後の問い合わせあり。

(5) 防災及び防犯への危機管理体制を確立する。

- ①作成済みである水害時の避難確保計画をユニットリーダー以上で読み合わせ、避難警戒レベルなどを盛り込んだ内容に改定した。
- ②高浜安立荘と一体的に、火災、地震、津波を想定した避難訓練や心配蘇生訓練を実施した。
- ③8月に開催された防災フォーラムでは今年度芳川町の町内会も同日に防砂訓練が行われ、地域住民と一緒に防災意識を高めることができた。ボランティアや訓練に職員が参加した。
- ④防犯訓練については今年度中に実施が出来なかった為、次年度への課題となった。防犯マニュアルの作成についても少人数の事業所で実施可能な内容を検討し、次年度に作成を目指す。

(6) 外国人技能実習生制度を活用し、安定的な人材確保に繋げるとともに国際貢献に寄与する。

- ①実習候補生の日本語試験の合格の遅れにより、当初の受け入れ時期を延長せざるを得なくなり、今年度の受け入れは出来なかった。また新型コロナウイルスの影響で今後の受け入れ時期が未定の状況ではあるが、職員への受け入れ体制の構築と教育を実施していく。

2. 利用状況報告

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366	
①実人員(名)	平成30年度	71	72	71	74	71	72	74	70	70	70	68	78	861	71.8
	令和1年度	79	80	75	69	72	78	81	85	83	82	83	79	946	78.8
	内訳(市内)	44	46	46	43	47	52	49	51	52	52	54	53	589	49.1
	内訳(知的)	6	2	3	4	2	4	3	3	3	1	3	2	36	3.0
	内訳(市外)	29	32	26	22	23	22	29	31	28	29	26	24	321	26.8
	安城市	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4	0.3
	大府市	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3	0.3
	刈谷市	4	7	5	4	6	6	5	5	6	5	5	5	63	5.3
	知立市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	9	0.8
	半田市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	23	1.9
②延利用日数(日)	碧南市	19	20	18	15	14	13	21	22	18	20	19	18	217	18.1
	他市区町村	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.2
	平成30年度	512	490	451	491	536	531	507	477	479	488	437	518	5,917	493.1
	内訳(市内)	331	281	280	306	339	317	310	273	297	330	295	344	3,703	308.6
	内訳(知的)	12	16	12	16	12	17	23	23	19	16	23	25	214	17.8
	内訳(市外)	169	193	159	169	185	197	174	181	163	142	119	149	2,000	166.7
	令和1年度	481	498	457	456	480	486	484	507	480	498	496	473	5,796	483.0
	内訳(市内)	278	306	279	286	311	326	303	319	320	331	353	335	3,747	312.3
	内訳(知的)	36	17	22	33	20	23	22	21	21	15	22	17	269	22.4
	内訳(市外)	167	175	156	137	149	137	159	167	139	152	121	121	1,780	148.3
③1日の平均利用人 員(名)	安城市	3	7	0	0	0	0	0	0	4	5	0	0	19	1.6
	大府市	2	0	0	0	0	0	0	6	0	3	0	0	11	0.9
	刈谷市	37	49	24	23	39	30	31	30	32	37	30	35	397	33.1
	知立市	4	6	5	6	5	5	5	5	5	0	0	0	46	3.8
	半田市	8	12	16	12	12	16	15	8	10	8	7	1	125	10.4
	碧南市	110	98	111	96	93	86	108	118	88	99	84	85	1,176	98.0
	他市町村	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0.5
	平成30年度	17.1	15.8	15.0	15.8	17.3	17.7	16.4	15.9	15.5	15.7	15.1	16.7		16.2
	令和1年度	16.0	16.1	15.2	14.7	15.5	16.2	15.6	16.9	15.5	16.1	17.1	15.3		15.8
④稼働率 (%)	平成30年度	85.3	79.0	75.2	79.2	86.5	88.5	81.8	79.5	77.3	78.7	75.3	83.5		80.8
	令和1年度	80.2	80.3	76.2	73.5	77.4	81.0	78.1	84.5	77.4	80.3	85.5	76.3		79.2
⑤1人当たりの平均利 用日数(日)	令和1年度	7.2	6.8	6.4	6.6	7.5	7.4	6.9	6.8	6.8	7.0	6.4	6.6		6.9
	平成30年度	6.1	6.2	6.1	6.6	6.7	6.2	6.0	6.0	5.8	6.1	6.0	6.0		6.1
⑥送迎件数(回)	平成30年度	200	211	218	225	205	199	177	196	179	195	197	215	2,579	214.9
	令和1年度	194	202	200	197	186	200	204	225	192	181	193	168	2,342	195.2
	内訳(市内)	132	147	139	140	130	141	144	157	135	124	138	116	1,643	136.9
	内訳(市外)	62	55	61	57	56	59	60	68	57	57	55	52	699	58.3
	安城市	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4	0.3
	大府市	2	0	0	0	0	0	0	4	0	2	0	0	8	0.7
	刈谷市	6	12	9	8	12	12	10	10	10	10	10	14	123	10.3
	知立市	1	3	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	18	1.5
	半田市	3	3	4	4	2	7	1	3	3	3	2	0	35	2.9
	碧南市	49	35	46	43	40	38	47	49	41	41	43	38	510	42.5
⑦入所(回)	他市町村	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
	平成30年度	120	122	131	130	126	128	112	123	122	118	128	138	1,498	124.8
⑧退所(回)	令和1年度	127	132	127	126	124	137	140	144	132	128	130	124	1,571	130.9
	平成30年度	126	126	126	133	123	125	116	127	114	121	122	137	1,496	124.7
⑨新規利用者数 (名)	令和1年度	126	137	122	131	122	139	136	145	128	129	132	124	1,571	130.9
	平成30年度	5	8	6	9	3	7	6	6	3	5	6	6	70	5.8
	内訳(市内)	2	4	3	7	4	2	2	4	2	7	5	3	45	3.8
	内訳(知的)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
⑩平均要介護度 (介護保険対象のみ)	内訳(市外)	2	3	2	0	0	1	3	3	1	0	1	1	17	1.4
	平成30年度	2.5	2.4	2.4	2.3	2.6	2.6	2.5	2.4	2.6	2.3	2.3	2.4		2.4
	令和1年度	2.5	2.4	2.4	2.2	2.2	2.4	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	1.8		2.3
⑪紹介居宅介護支援事業所数	平成30年度	22	24	22	26	21	23	25	22	23	19	18	18	263	21.9
	令和1年度	22	26	21	22	21	23	23	23	23	20	19	19	266	22.2
内、新規居宅介護支援事業所数	平成30年度	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0.3
	令和1年度	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0.2
⑫緊急利用者数	平成30年度	0	1	0	2	2	2	0	2	0	2	0	0	11	0.9
	令和1年度	0	0	0	1	0	0	2	1	0	1	0	0	5	0.4
⑬2週間以上の長期 利用者数	平成30年度	12	8	8	8	11	13	8	9	10	12	7	9	115	9.6
	令和1年度	8	7	9	8	9	7	8	5	7	10	9	7	94	7.8
⑭1日の最小利用者 数	平成30年度	13	12	10	8	9	13	12	11	10	12	11	14		
	令和1年度	12	12	12	10	7	12	11	12	8	9	12	9		
⑮1日の最大利用者 数	平成30年度	20	20	19	20	20	20	19	20	20	18	20	19		
	令和1年度	20	20	19	18	19	20	19	20	20	20	20	19		

令和元年度 事業報告書 （高浜安立荘居宅介護支援事業所）

1. 事業計画の達成状況

(1) 特定事業所加算算定事業所として質の高いケアマネジメントを実践する。

- ①週に1回のミーティング時に各種制度、ケアマネジメントに関する勉強会、研修会を開催し知識、技術の向上を図ることができている。また、全員が同様のプロセスでケアマネジメントを実践することができた。
- ②処遇困難ケースについては事業所内で検討会を開催し周知を図るとともに、事業所として対応方法を検討した。また、高浜市地域包括支援センターへの報告を徹底し、状況によっては介入を依頼し、市と連携を図り対応することができた。
- ③各職員個別の研修計画にそって、外部研修に参加することができた。ただし、令和2年2月以降は新型コロナウィルスの感染が拡大し、外部研修に参加できなかつた。また、職員1名が介護支援専門員更新研修を修了した。
- ④高浜市在宅医療・介護連携についての事例検討会(7月18日、9月19日、11月21日、1月16日)に参加した。また、高浜市介護支援専門員研修会(10月10日、11月15日)にも参加した。
- ⑤市内の居宅介護支援事業所と共に高浜市内ケアマネジャー情報交換会(6月10日、9月10日、12月10日)を開催し、他事業所との情報共有・連携を図った。
- ⑥他法人の居宅介護支援事業所と共に合同事例検討会(6月10日、9月10日、12月10日)を開催し、ケアマネジメント技術の向上につなげることができた。
- ⑦情報共有システム(えんjoyネット高浜)を有効活用し、医療・多職種と円滑に連携できている。
- ⑧今年度は介護支援専門員実務研修実習生の受け入れ依頼はなかつた。

(2) 事業所の月平均給付管理件数116件以上を確保し、安定した財務基盤を確立する。

- ①平成30年度の新規利用者年間契約件数は38件に対して、令和元年の新規利用者年間契約件数は48件であり、件数としては増加しているが、契約終了者等も増加し、職員1人当たりの給付管理件数は月平均30.5件、事業所全体で月平均104件であり、目標とする件数を達成することができなかつた。そのため、収支はマイナスの結果となつた。
- ②制度を遵守し、算定できる加算については確実に算定することができた。

(3) 地域福祉の発展に貢献する。

- ①高浜市主催の「介護予防のための地域ケア個別会議」に年に8回参加し、会議を通じて地域課題についても協議することができたが、具体的な取り組みには至っていない。また、高浜市主催の「高浜市地域介護力向上プロジェクト会議(多職種連携推進チーム)」に毎月参加し、市内の医療・多職種連携の強化に貢献している。
- ②他法人の居宅介護支援事業所と共に合同事例検討会(6月10日、9月10日、12月10日)を開催し、市内のケアマネジャーの資質向上につなげることができた。
- ③高浜市・市内事業所と共に高浜市民のための研修会である「高齢者を支える家族の集い」で11月28日にテーマ「高齢者の運転免許自主返納について」の講演会を開催した。
- ④高浜市認定の健康自生地「昭和で元気になる会」が主催する認知症カフェ「昭和で元気になるカフェ」に毎月、事業所職員が交代で参加し地域に貢献することができた。

(4) 市内の大規模災害に備えた防災体制を確立する。

- ①、②高浜市と防災に関する研修会、図上訓練の開催を令和2年1月以降で検討していたが、新型コロナウィルスの感染が拡大し、開催することができなかつた。

2. 介護給付費請求件数(要支援・要介護度別件数)

单位：件

月	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	4	6	42	31	16	7	3	109
5 月	4	8	41	32	17	11	2	115
6 月	4	8	42	30	16	13	4	117
7 月	4	7	44	28	16	10	6	115
8 月	4	6	47	29	13	9	5	113
9 月	4	6	49	28	15	9	5	116
10 月	4	5	47	30	13	8	3	110
11 月	4	6	47	30	13	11	4	115
12 月	4	6	50	28	14	11	5	118
1 月	4	7	48	31	13	10	4	117
2 月	4	8	45	29	11	11	3	111
3 月	3	8	47	33	11	10	4	116
合計	47	81	549	359	168	120	48	1372
%	3%	6%	40%	26%	12%	9%	4%	100%

3. 相談・活動狀況

单位：件

月	相談延件数	約 ン グ モ 訪 問 タ リ	(相 延 件 内 容)	援助方法別			サ ー ビ ス 担 当 者 会 議 件 数
				直接援助		間接援助	
				訪問件数	来電所話・	連絡協調等調整	
4月	641	688		157	115	369	13
5月	740	783		163	133	444	33
6月	667	708		155	140	372	22
7月	638	661		164	123	351	19
8月	608	652		156	127	325	18
9月	607	645		145	127	335	20
10月	651	690		156	141	354	21
11月	673	701		159	126	388	20
12月	693	730		164	126	403	22
1月	731	765		144	132	455	18
2月	641	667		155	106	380	17
3月	737	777		138	146	453	16
合計	8027	8467		1856	1542	4629	239
月平均	669	706		155	129	386	20

4. 各月契約者状況

单位：件

月	介護給付費 請求件数	新規契約者	契約終了者	契約終了者内訳		
				死亡	施設入所	その他
4月	109	2	1	0	1	0
5月	115	5	1	0	1	0
6月	117	2	2	2	0	0
7月	115	6	5	2	1	2
8月	113	3	2	0	1	1
9月	116	3	1	0	1	0
10月	110	3	3	2	1	0
11月	115	10	4	1	2	1
12月	118	6	3	3	0	0
1月	117	5	4	2	2	0
2月	111	2	2	0	2	0
3月	116	1	2	0	1	1
累計	1372	48	30	12	13	5
月平均	114	4	3	1	1	0

令和元年度 事業報告書 (小原安立・高齢者グループホーム)

1. 事業計画の達成状況

(1)根拠に基づいた高品質な個別ケア・サービスを提供する

- ① 「願いや希望」を施設サービス計画の短期目標に位置付けた上で、5つの生活構成要素の生活リズムの安定性や要介護認定時間等の変化について、「バーセルインデックス」の評価を8月より開始し12月にアウトカム評価を行いました。
- ② 新たに導入したタブレット式介護記録システムを高齢職員でも活用できるよう手順表を作成、研修を実施することで実施記録入力化の定着を図ることができました。またシステムを活用して、看護員との情報共有を図り、朝の時間帯の申し送りを廃止する業務改善につなげることができました。
- ③ 『利用満足度調査』については、定員86名の入居者のご家族を対象に、12月1日から12月13日にかけて調査を実施しました。回収率は66%（57件）となっており、総合評価の満足度は、96.5%（昨年度89.2%）でした。前年度より回収率は低かったものの総合評価については昨年度を上回る結果をいただきました。今年度新たに福祉サービス第三者評価も受講しました。

(2)現場対応力（能力開発）と人間力（心田開墾）を高める人材教育を推進する

- ① 法人の人材育成方針「褒めて育てる・德育」を踏まえ、職員同士が「褒め合う・認め合う・学び合う」活動を継続実施しました。本年度はハチドリチャレンジ活動に積極的に参加された職員の行動が最優秀モデル行動賞に選ばれ、「小さな手差し出すその手は大きな力」を小原安立モデル行動（5号）として認定し表彰しました。
- ② 介護員の専門性向上の観点から認定特定医行為業務従事者4名、初級コンチネンスマイト1名、ユニットリーダー研修修了者1名、介護福祉士合格者4名輩出することができました。また、ICF視点の施設サービス計画作成に係るスキルアップとして外部講師招聘（奥田亜由子氏）業務改善の観点から業務手順の標準化研修を外部講師招聘（後藤功太氏）し行いました。
- ③ 外部団体等における実践発表としては、生活の質向上等を目的とした研究活動の成果を7月「東海北陸ブロック老人福祉施設研修大会」でコンチネンスケア等委員会が発表を行いました。また、入居者のFIM評価を実施し、福祉実践発表において発表しました。

(3)健全な経営と介護・労働環境の改善を図る

- ① 外国人技能実習制度の活用に向け、受け入れ体制整備として技能実習責任者3名、実習指導者3名、生活指導者3名が講習会を受講しました。また住居設備に関しましては、豊田市遊屋町の市有物件購入申込審査に合格し、物件を取得することができ、現在7月末完成予定として新築物件1棟の施工工事が開始されております。
- ② 経年劣化した設備について計画的に修繕を行い、電動ベッドのブレーキ（14台）、ユニット洗面台（1か所）、ユニット内の扉（浴室、トイレ、居室）の接続部品等の更新をしました。また、特殊浴槽・浴室の設備を更新いたしました。
- ③ 労働安全衛生環境の改善として男女別の休憩所を作りました。また、職員の業務負担の軽減、夜勤職員の業務負担軽減を目指及び、介護の質向上のため、見守り支援機器（見守りライフ8台）を追加しました。
- ④ 入所型の稼働率は、96.4%（特養：97.4%、短期入所：81.9%、GH：97.8%）であり、昨年度に比べ、3.4%稼働率が上昇しています。今年度、特養の空床利用を短期利用者が利用するが多く短期入所の稼働率が20%近く上昇し、稼働率を確保することができました。

(4)地域貢献活動を積極的に行い、社会福祉法人としての価値を高める

- ① 「認知症カフェ」の開催に向けて、情報収集を行い、社会福祉協議会と協力し、12月に施行開催を行いました。その後豊田市に「さくらカフェ」として登録を行い2月より月1回の開催を開始いたしました。小原福祉ビレッジとして各拠点施設ホームページ上に「福祉の総合相談窓口」開設し、運用を開始し、当該事業所においては2件の相談対応を行うことができました。
- ② 小原西自治区の「よつばゲンキーズ」において行事支援などに職員が10名参加。地元の沢田町

内会の交通立哨活動に 21 名、小原スポーツフェスタ 3 名、それぞれ協力することができました。また、「地域発見隊」として小原中学生（1名）、日本福祉大学のフィールド演習で大学生（9名）を受入れ、「介護の魅力・楽しさ」を伝えることができました。

（5）個別事態を想定した減災・低減対策を推進する

- ① 停電時の電力・電源確保対策強化のため、新たにグループホームに自家発電機を設置、防災用ランタンを追加し、充電器を各ユニット用に購入しました。
- ② 5月 29日の計画停電時にカセット式発電機を使用し停電時の電源確保訓練を行いました。
- ③ 介護保険の加算・減算事項について自主点検を実施し、新たに「看取り介護加算」の算定を開始いたしました。

2. 利用状況報告書

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
特養	2222	2413	2362	2431	2425	2311	2438	2331	2403	2396	2234	2353	28,319
短期入所	127	160	131	156	162	168	136	132	147	150	156	173	1,798
G H	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	174	186	2,196
共用型デイ	65	63	60	61	61	56	56	49	52	51	53	27	654
合計	2594	2822	2733	2834	2834	2715	2816	2692	2788	2783	2617	2739	32,967

■稼働率 ①特養：96.7%、②短期：81.9%、③G H：97.8%、④共用型デイ（360日営業）：60.5%

3. 施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1 / 2
---------	-------

1. 名 称	小原福祉ビレッジ東法面復旧工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	小原福祉ビレッジ東法面が一部崩落したため、法面全体の復旧工事を実施した。	
3. 修繕工事費	小原安立負担金 ￥ 4,657,618- (全体金額 ￥14,406,120-)	
4. 完了年月日(工期)	令和1年5月11日 から 令和1年7月25日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

修繕工事 NO	2 / 2
---------	-------

1. 名 称	小原福祉ビレッジ浄化槽器機取替修理工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	浄化槽ポンプ等の交換時期となり、劣化により停止してしまわないよう修繕工事を行った	
3. 修繕工事費	小原安立負担金 ￥ 698,346- (全体金額 2,160,000)	
4. 完了年月日	令和1年9月20日 から 令和1年9月30日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

物品 NO	1 / 2
-------	-------

1. 物品の名称	非常用発電機(高齢者GH)	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	非常災害時の電源確保のために整備を行った	
3. 購入金額	￥ 7, 370, 000-	
4. 購入年月日	令和1年12月30日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り 無し	(1) 補助・助成団体名 豊田市 (2) 補助・助成金額 ￥ 7, 370, 000-

物品 NO	2 / 2
-------	-------

1. 物品の名称	特殊浴槽の更新	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	特殊浴槽（寝浴・介護用シャワー入浴装置）は設置後16年を経過し、経年劣化により供給部品も終了となるため、車椅子入浴装置に更新した。シャワーチェア2台も併せて導入した	
3. 購入金額	¥ 4,708,000-	
4. 購入年月日	令和2年2月28日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り 無し	(1) 補助・助成団体名 (2) 補助・助成金額

令和元年度 事業報告書（ケアハウス高浜安立）

1. 混合型ケアハウスとして、その方の状態に合わせた日々の楽しみや「夢」を持ってもらえる施設作り

(1) 「役割」や「生きがい」を持って生活してもらえる取り組みの実施（一般型）

月1回の一般型クラブでの「さつま芋作り」「お菓子作り」や、月2回の介護予防クラブを実施した。また「生きがい外出」では入居者からの希望の聞き取りを行い、美術館、三が根山、セントレア、サーカスの見学と、4回企画外出ができた。いずれも担当介護職員が入居者の意向を大切に、日々を楽しめるよう工夫しており、次年度も引き続き、実施していきたい。

(2) 「楽しみ」が持てる生活の提供や、入居者の「夢」が叶えられる取組みの実施（特定型）

少人数での「特定お楽しみ外出」を年4回実施できた。個々の希望に合わせた動きで、職員との楽しい時間を過ごすことができた。身体が不自由になっても外出を通して刺激を受けたり、季節に合わせたイベントを行い、四季を感じられる生活の提供ができた。

2. 多様な入居者の状態に対応できる介護技術やコミュニケーション能力の向上と効率的な職員体制整備

(1) 多様な入居者の状態に対応できる介護技術やコミュニケーション能力の向上（一般型）

昨年度の後半以降、一般型入居者も入れ替わりが多く、入居者同志の人間関係も変化してきている。そのためか、入居者同志の揉め事も多く、それぞれの入居者の思いに耳を傾ける必要が多く発生してきた。日常の場面やクラブ活動等の中で担当介護員も入居者の思いを汲み取る取組みを行っている。また、目立たない入居者の中にも、他者との関係で悩みを持っている入居者もいるため、個別の機会での話しを聞くようにしてきた。

(2) 多様な入居者の状態に対応できる介護技術やコミュニケーション能力の向上と勤務体制の再構築（特定型）

昨年までは、重度の入居者が年々多くなる状態で支援が厳しくなってきていたが、昨年度後半から今年度前半にかけて入替えが多く、現在は要介護1・2の入居者が増えてきている。しかし、要介護1・2の中度の入居者が多くなっても、持病の悪化から医療面での配慮が多くなり、看護師への負担や個々の支援計画が多岐に亘ってきている状況である。常勤介護員は昨年度の退職者から補充が出来ず、6名での配置であり、時には早出からの長時間休憩を取り、夕食後までの業務になることもあるが、夕食後まで勤務して頂ける非常勤を週2日配置したことで、14日間の休日の消化や有給休暇の5日間取得も無理なく行うことができた。

看護職員については、1名が1月から休職となり、常勤看護師1名での業務となった。経験の浅い看護師にとってはストレスや不安の多い年度後半とはなったが、非常勤看護師のフォローもあり、苦難を糧として成長してきている。また、技能実習生を受け入れ、その指導の中で、改めて自分たちの技術を再確認することができた。「ノーリフト」等の考え方を取り入れ、福祉用具等を利用しながら、入居者にも職員にも優しい介助方法を、と考えてきたが、次年度以降も引き続き取り入れていきたい。年間を通して人のやりくりに大変な中ではあったが、「どうしたらやれるか」という建設的な考え方をもち、職員間での「共通理解」を重視して運営をおこなった。

3. 季節を感じられる食事の提供と、多様な入居者の状態に適した食事形態や提供方法の検討

材料費高騰の中、よりおいしく食べやすいものを目指して栄養士も厨房と連携を図っている。味付け等も均一化し、おいしいものを提供できていると思われる(入居者の意見は評価の高いものとなっていいる)。しかし、厨房職員も欠員が出ている中、徐々に既製品の導入が多くなっている。既製品でもおいしく、固さに配慮のある食材探しに栄養士も努力しているが、食事が入居者にとっては何よりの楽しみであり、3食の栄養バランスを考えながらきちんと提供できること、折々の季節感を食事や生活中で提供できることが施設の強みでもあることから、入居者の満足度を上げられる努力を引き続きしていきたい。

とろみを必要とする入居者も増えてきているが、看介護でとろみの強さについて共通化を行い、水分提供をする各場所に誰でもわかるよう視覚的に掲示した。

4. 地域の資源として公益性を發揮し、求められる施設を目指す

元気な状態から介護が必要になっても住み続けられる当施設の強みを生かして、独居高齢者や介護1・2程度の方の受け入れ先として周知され、特定型への入居希望者とともに、ここ最近は一般型が対象になる入居相談が増えてきている。地域住民の意識も変化し、家族に頼らず施設を検討されている方が増えてきているためと思われる。逆に特定型対象の希望者については、長期の待機の間にサービス付き高齢者住宅等へ入居されている方が目立ってきており、実待機者が減ってきていると思われる。混合型ケアハウスとしての特徴を生かし、当施設を利用される方が不安なく移行できるよう支援していきたい。

昨年度から実施しているゲストルームを活用した生活困難者の緊急受け入れについては、実際の利用は無かったが、虐待等の案件で時折地域包括支援センターからの問合せも来る状況である。

5. 設備の更新・修繕を通じ、重度化している入居者にも住みやすい環境とする

① 設備の更新

居室のエアコンは今年も経年劣化により夏場に5台交換した。居室給湯器についても定期の保守後、更新が必要な器具を更新した

今年度は食堂の劣化した床の張替えを計画し、7月に2日間食事を集会室で提供する中で張替え工事を完了している。

また、同時期に食堂の排水が1階集会室裏の機械室で漏水している状況となり、修理方法に苦慮したが、約3ヶ月後に何とか漏水修理を完了することができた。この他にも、スプリンクラーの非常電源装置のバッテリー交換等、経年劣化での修繕が続く状態であった。

② 入居者に適した修繕の実施

入居者の居室の和室から洋室への転換はタイミングが合わず実績0であった。トイレ扉の付け替えも必要な入居者がいないことから実績は無かった。引き続き入居者の状態に合わせ次年度以降も実施していく。

6. 大規模震災に備えた危機管理体制の確立と防災教育・防災訓練の継続

防災勉強会の開催や、火災・地震津波想定の避難訓練を繰り返し開催している。階段を上がれない入居者の搬送についての訓練は回数を重ねていることから、今後は発災後の避難生活について訓練を実施した。また防災食については、入居者の状態の変化により、準備した食事が固いなどの理由から災害時に食べられない可能性も推察されるため、保存の効く柔らかい防災食の試食会を会議の中で行い、取り入れた。また、災害時の精神的なダメージから食欲不振になる入居者も増えると思われるため、日常的に入居者で利用している缶入りの高カロリー栄養剤を6階の防災倉庫でローリングストック方式にて保管し、有事の際に利用できるよう体制を整えた。

7. 利用状況報告書

定員50名

区分	入居			退居					次年度繰越
	前年繰越	本年入所	計	家庭復帰	入院	他施設	死亡	計	
男	13	3	16		2		2	4	12
女	36	5	41				4	4	37
計	49	8	57	0	2	0	6	8	49

月別	初日在籍人員	充足率(補助金)	月日数	延べ人員	特定入居者月間のべ利用者数	稼働率	備考
4	50	100%	30	1,500	886	93.3%	1名入居 1名退居
5	50	100%	31	1,550	913	92.0%	1名入居
6	50	100%	30	1,500	913	98.2%	1名退居
7	50	100%	31	1,550	919	94.4%	1名入居 1名退居
8	50	100%	31	1,550	960	96.8%	1名入居
9	50	98%	30	1,500	916	98.5%	2名退居
10	50	100%	31	1,550	972	98.0%	2名入居
11	50	100%	30	1,500	934	97.3%	1名退居
12	50	100%	31	1,550	959	96.7%	1名入居 1名退居
1	50	100%	31	1,550	986	99.4%	1名入居
2	50	100%	28	1,400	928	100.0%	
3	50	100%	31	1,550	967	97.5%	1名退居
合計	600		365	18,250	11,253		8名入居 8名退居
月平均	50.000	100.0%		1,521	937.8	96.8%	

令和2年3月31日現在 ()は特定入居者数

要介護度	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数	13	3 (0)	3(1)	17(16)	6(6)	3 (3)	4 (4)	1 (1)

今年度も補助金施設として月初の人員を満床で向かえ、充足率は100%となった。特定施設の入居者の稼働率は96.8%となり、法人目標の97%に達することは出来なかった。年度途中、特定施設対象の入居者を32人までに増やしたが、平成30年度末ごろの入院等稼働率の悪さを引きずって、年度初めに92~93%の稼働率になってしまったことが大きいと思われる。入退居状況としては、8名ずつとなっており、ほぼ平均的な状況となっている。令和元年度は、施設での看取りをさせて頂いた方が3名となった。1名は開所以来入居していただいている満102歳の入居者様であり、他の2名の方も含め、穏やかに住み慣れた場所と職員に囲まれ、最期まで過ごして頂くことができた。当施設に入居されている方は、必ずしも直系のご家族がいる方ばかりでなく、希薄な家族関係の中で必要時ののみの来所や面会の方もいる。ご家族の代わりとはなれないまでも、生活を一緒にしている施設での生活では、看介護職員がご本人の様々な思いを率直に受け取り、その人となりに触れることが多い。「元気な状態から介護が必要になってもその人らしく住み続けられる」ことが1番の目標であり、引き続きご希望の人生を送ることができるよう支援していきたい。

8. 施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	食堂床張替え工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	平成9年の開所後使用し続けてきた食堂の床面の傷みが激しく 入居者の躊躇の原因ともなりうるため、張替えを実施	
3. 修繕工事費	982, 584円(税込み)	
4. 契約年月日	令和元年6月1日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

修繕工事 NO	2
---------	---

1. 名 称	厨房配管水漏れ補修工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	厨房からの汚水が配管上部(方向を変更する付け根部分)から1階 集会室の機械室内で水漏れを起しており、形状から、水漏れして いる部分より手前にて新たに配管を作りなおす。外壁に穴を開 け、配管を通し汚水槽に流す工事実施。	
3. 修繕工事費	993, 600円(税込み)	
4. 契約年月日	令和元年8月5日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

物品 NO	1
-------	---

1. 物品の名称	冷蔵ショーケース	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	平成15年より使用していた食堂の冷蔵ショーケースに不具合が続いて おり、充分に冷えないことが見られたため、更新。	
3. 購入金額	940, 500円(税込み)	
4. 購入年月日	令和元年12月18日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

令和元年度 事業報告書 (ケアハウス大阪安立)

1. 入居者の健康で明るい自立生活を支え、やさしい個別支援を行う

今年度は自立生活を支えるために常に声掛けが必要な方が増え、職員は入居者の何とも言えない不安の中で事務所に行けば誰かが声を掛けてくれるという安心感を持っていただく為に、優しい声掛けを行い、個々に応じた支援を行ってきました。また入居者だけでなく、ご家族への対応をしっかりと行い、良好な関係作りが出来たので、お薬管理・通院状況・日中行動の把握などは前年を上回る情報共有が出来ました。

地域の在宅医療・保健・福祉サービスを有効に活用し、自立した生活を維持できるよう、医療・介護事業者等と連絡・協調しながらサービス提供を行いました。特に薬局・訪問看護との連携は、自立生活を維持するために欠かせないサービスとなり、今まで以上に健康面での状況把握がしやすくなりました。

2. 人類愛に満ちた昭徳会職員としての資質向上、人材育成に取り組む

基本方針・職員行動指針の唱和継続と月毎の強化項目をテーマに職員会議にて3分スピーチを行い記録したことにより、言葉伝わり方、話のまとめ方が向上しました。

毎週提出される業務報告・業務計画を活用して一週間の仕事の振り返りをすることにより、個人目標の達成を目指していましたが、計画性を持って実行できるまでには至らなかった。今後もこの報告を提出する意味をしっかりと伝え、次年度以降も継続していきます。

外部研修の参加には人員配置により、積極的な外部研修の参加は難しい状況でした。相談員・介護員・栄養士のそれぞれが参加した研修については、資料をまとめグループワークの手法を用いて内部研修を行いました。

3. 充実した楽しい食事で健康管理を行う

季節感のある食事や、個々の状況に合わせた食事を継続し、折り紙の箸置きやお品書きに工夫をこらし、食器の更新と併せて食事環境の向上に取り組みました。机の配置や配膳者への座席の配慮など、楽しく食事ができるよう個々の状況を把握する声掛けを行いました。

栄養ケアマネジメントにより、食事の形状を個別に対応し、噛む・飲み込む等の向上を目指して行いましたが、能力を向上させる成果は出ていませんが、現状維持にて推移しています。

4. 安定した財務状況の維持と、建物・設備の修繕・更新の実施

入居率98.8%は過去最高の昨年よりも低下しましたが、高い入居率を保っています。老人福祉事業収入は、補助金は消費増税分の上乗せがあり昨年より增收となりました。

施設経過17年となり、建物・設備において、突然の故障等が発生し更新・改修工事を行いました。エアコンやエレベーターなどは生活に欠かせない設備は、故障した場合に多額の修繕費が必要となるので、事前の点検にて早めの部品交換や設備更新が必要な状況です。

5. 福祉施設の機能が発揮されるよう、社会・地域への貢献活動及び情報発信に取り組む

此花区社協と連携し、施設機能の紹介や高齢者施部会にて、民間の高齢者住宅相談員や地域包括センターも加わり地域高齢者を受け入れる情報共有が出来ました。地域の生活困窮者に対し専門性を活かし、成年後見契約支援と引っ越しによる生活立て直しの3件支援を行いました。

6. 災害や緊急事態に備えた危機管理体制と減災対策の確立

災害に対する地域連携について、町会の避難訓練にて施設の役割説明及び津波避難ビルの役割を説明しました。また、施設内での減災対策の見直しの為、入居者への災害講習を行い、職員へは災害時の具体的行動ができるよう内部研修の実施訓練を行いました。

7. 利用状況報告書

定員50名

区分	入居			退居					次年度繰越
	前年繰越	本年入所	計	家庭復帰	入院	他施設	死亡	計	
男	11	0	11	0	0	0	1	1	10
女	38	4	42	0	0	1	1	2	40
計	49	4	53	0	1	4	2	3	50

	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	計
男	0	0	0	2	2	3	3	10
女	0	1	2	2	15	12	8	40
計	0	1	2	4	17	15	11	50

月別	初日在籍人員	充足率	月日数	延べ人員	備考
4	49	98%	30	1,470	
5	49	98%	31	1,519	
6	50	100%	30	1,500	
7	50	100%	31	1,550	退居 1 名
8	49	98%	31	1,519	退居 2 名
9	48	96%	30	1,440	入居 1 名
10	49	98%	31	1,519	入居 1 名
11	49	98%	30	1,470	
12	50	100%	31	1,550	入居 1 名
1	50	100%	31	1,550	
2	50	100%	29	1,450	
3	50	100%	31	1,550	
合計	593		366	18,087	
月平均	49	98.8%	31	1,507	

(注) 充足率及び月平均は、小数点第1位を四捨五入してください。

8. 施設設備等状況調書

修繕工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	高圧受電設備改修工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	高圧受電設備の点検により不備がでている箇所について、ケーブル他全ての部品交換を行った。(一般競争入札)	
3. 修繕工事費	¥3,477,600	
4. 完了年月日	令和元年6月5日	
5. 法人、施設以外から の補助金および助成金 の有無	有り <input checked="" type="radio"/> 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

修繕工事 NO	2
---------	---

1. 名 称	エレベーター1号機改修工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	エレベーター1号機から異音と振動があり、調査によりロープ交換と ブーリ（滑車）交換が必要となった。安全面を考慮し早急な対応 として3社見積もりにより業者を決定した。	
3. 修繕工事費	¥2,475,000	
4. 完了年月日	令和2年3月27日	
5. 法人、施設以外から の補助金および助成金 の有無	有り <input checked="" type="radio"/> 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

修繕工事 NO	3
---------	---

1. 名 称	給排気ファン更新工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	厨房排気ファンから近隣に迷惑がかかるほどの異音が発生したため 早急に調査すると、更新が必要との結果がでた。17年常に使用して から、給排気合わせて更新することになった。 緊急を要するため随意契約とした。	
3. 修繕工事費	¥1,620,000	
4. 完了年月日	令和元年9月30日	
5. 法人、施設以外から の補助金および助成金 の有無	有り <input checked="" type="radio"/> 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

修繕工事 NO	4
---------	---

1. 名 称	食堂空調機の修理	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	2階食堂の空調機が故障したため緊急で修繕工事を実施した。	
3. 修繕工事費	¥1,023,000	
4. 完了年月日	令和2年1月28日	
5. 法人、施設以外から の補助金および助成金 の有無	有り <input checked="" type="radio"/> 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

修繕工事 NO	5
---------	---

1. 名 称	ろ過装置修繕工事	
2. 修繕工事の理由並びに 設置内容の概要	ろ過装置より水漏れが発生したため緊急に修理を行うことになった。 バルブ・電位弁等の経年劣化による交換も合わせて行った。 緊急を要するため随意契約とした。	
3. 修繕工事費	¥726,000	
4. 完了年月日	令和2年3月29日	
5. 法人、施設以外から の補助金および助成金 の有無	有り <input checked="" type="radio"/> 無し	(1) 補助・補助団体名 (2) 補助・助成金額

物品 NO	1
-------	---

1. 物品の名称	スチームコンベクション	
2. 購入の理由並びに 設置内容の概要	既存スチームコンベクションは17年使用しており、修理見積が50万 超えたことから新しく更新することになった。	
3. 購入金額	¥995,760	
4. 購入年月日	令和元年7月23日	
5. 法人、施設以外から の補助金および助成金 の有無	有り <input checked="" type="radio"/> 無し	(1) 補助・助成団体名 (2) 補助・助成金額

令和元年度 事業報告書 (養護老人ホーム高浜安立)

1. 事業計画の達成状況

(1) 入所者の主体性と自主性を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上を図る。

- ① 入所者の処遇に関する個別処遇計画の作成と見直しを定期的に行い、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、処遇計画に基づいたケアの確立に努めた。
- ② 生きがいのある生活が送れるよう、健康体操クラブ、映画クラブ、書道クラブ、グランドゴルフクラブ、茶道クラブ、お楽しみクラブを企画し、地域住民の協力を得ながら、定期的に活動を実施した。
- ③ 養護老人ホームに求められるのは、家族との同居や地域での一人暮らしに困難な高齢者に対し、平穏な晩年を送っていただけるよう、個々にあった生活支援サービスや介護サービスを実施し、安心して住み続けられるよう取り組んだ。
- ④ 職員は、「丁寧なケア」が提供できるようケアの基本である「傾聴すること」「丁寧な会話」「豊かな表情」と「介護の前提は入所者の医療的状況の把握と認識から」という意識をもって業務に取り組み、入所者処遇の充実を図った。

(2) 入所者、ご家族、地域住民に信頼され、健全で安全な魅力ある施設運営をする。

- ① 地域や家庭との結び付きを重視した運営を行うため、グランドゴルフ交流会、カラオケ交流会を定期的に行うと共に、10月には、ご家族、地域の人々に、広く呼びかけて「ひなた祭り」を開催し、交流を促進した。
- ② 入所者の希望や心身の状況をふまえながら、生きがい活動支援に係る取組みとして、地域の夏祭りへの参加、週1回の買物等を計画し実施してきたが、3月からは、コロナウイルス感染症の対応のため、外出や行事等に係る取り組みはすべて中止とした。
- ③ 災害発生時の迅速な対応を図るため、防災訓練等に地元消防団及び地域住民が参加し、12月に総合防災訓練をおこなった。それと共に、避難住民の受け入れ体制の整備など、時代の要請に応えられる施設運営を目指すため、県の補助金を活用し非常用自家発電設備を整備した。

(3) 入所者に孤独感を与えないよう、明るく家庭的な雰囲気を創造し、安心、安楽な生活ができるよう取り組む

- ① 明るく家庭的な雰囲気を有しながら、入所者個人の生活全般を総合的に把握し、その人の人生で積み増しされた生活のしづらさの重みを共に荷解きしていく、という濃密な支援を最優先に行った。
- ② 職員は、「その人にとっての生活をどう考えるか」を大切にし、生活の質だけでなく、人生も含めて理解することで、本人の全体を捉えた援助に努め、ここは安心して住めるところだ、と感じてもらえるよう日頃からコミュニケーション対応に努めた。
- ③ 施設長とGLは、毎月1回は、全入所者と話し合いの場を設け、入所者の意見や要望、又は、希望を率直に述べてもらい、利用者の意向を尊重する努力をし、施設運営が一方的にならないよう努めた。

(4) 安定した施設運営を推進するとともに、今後の事業展開を計画する。

- ① 安定した施設運営を行うためには、稼働率96%(月初48人)が必須であり、前期においては、97.3%であったが、後期では98.6%とし、通期では98%を確保した。これは、県内の関係措置機関との情報交換を密に行い信頼関係が構築された結果である。
- ② 措置機関からの処遇困難者(アルコール中毒患者、知的障害者、精神疾患者)等の依頼に応える体制を整備し、障害者等加算施設に認定されることにより入所者の処遇を強化することができた。
- ③ 措置費においては、平成18年に指針が示されて以降、基準額が変更されていない現状を踏まえ、「消費税にかかる措置費の引き上げ」を高浜市に要望すると共に協議を重ね、消費税分(人件費を除く)が10月から10%に引き上げとなった。

2. 利用状況報告書

(定員 50名)

入 所			退 所									R2.3.31現在 入所者数								
H31.3.31現在 入所者数			本年入所			家庭復帰 (保護者引取)			他施設			入院			死 亡					
男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計			
28	21	49	6	6	12	1	0	1	2	4	6	0	0	0	3	2	5	28	21	49

月別の状況

月	月初日 人数 (人)	充足率 (%)	新規入所 者数(人)	退所者数(人)			入院		措置権者別入所者数				
				入院	死亡	他	入院者数	入院日数	(R2.3.31)				
4	49	98	0				2	49	高浜市 13				
5	50	100	1		1		2	60	名古屋市 25				
6	49	98	0			1	5	110	岡崎市 0				
7	48	96	0		2		8	102	安城市 3				
8	46	92	4			1	3	76	東浦町 3				
9	50	100	2			2	3	34	知多市 1				
10	49	98	0				2	31	南知多町 1				
11	49	98	1				5	73	刈谷市 2				
12	50	100	2			2	4	41	大府市 1				
1	50	100	0		2		5	67	計 49				
合計	588	—	12	0	5	7	44	743					
月平均	49.0	98.0	—	—	—	—							

※ 新規利用者を12名確保し充足率は98%を維持した。

入所者の介護認定状況

令和2年3月31日現在

要介護度	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	24	6	3	7	7	2	0	0	49

3. 施設設備等状況調書

設置工事 NO	1
---------	---

1. 名 称	非常用自家発電設備整備事業	
2. 設置工事の理由並びに 設置内容の概要	非常時においても最低限の電力を確保し、生活を維持するために ディーゼルエンジン可搬型発電機を設置する。	
3. 設置工事費	4, 928, 000円(消費税込み。)	
4. 契約年月日	令和2年3月10日	
5. 法人、施設以外からの 補助金および助成金の 有無	有り 無し	(1)補助・補助団体名 愛知県 (2)補助・助成金額 2, 464, 000円

令和元年度 事業報告書（養護老人ホームデイサービスセンター）

1. 事業計画の達成状況

(1) 選ばれ、喜ばれる、質のよいサービスを提供する。

- ① 職員は、在宅で生活をしていくことが、利用者の思いであることを強く受け止め、「サービス向上委員会」を毎月実施し、個々の利用者が抱えるニーズや課題の把握・分析を行い、利用者と家族の意向を踏まえた具体的な介護サービスの提供に努めた。
- ② 今年度は、職員の個性や能力を考えた業務分担を行い、一人ひとりが役割を認識し可能な限り、ゆとりをもって質の高いサービスの提供に取り組んだ。少しづつではあるが、職員は互いに思いやりながら業務に取り組む姿勢となってきた。
- ③ 在宅生活を支えるためにデイサービスがあるということを職員は理解し、利用者のアセスメントによるニーズの把握に重きをおいた通所介護計画を作成し、実施から再立案までの一連の流れを計画的に進めた。
- ④ 利用者が笑顔になれるサービス提供を職員間の共通目標とし、相手の立場にたって物事を捉え、心地よいサービス提供を心がけることで「きてよかったです！ また明日もきたい！」との声が聞こえるようになってきた。

(2) サービスの質を向上させるために質の高い職員を育成する。

- ① 「基本理念」「基本方針」「職員行動指針」を共有し、自主的な判断力や行動力が備わった職員の育成に取り組み、職員は互いに、日々の気づきを出しあって、未経験の問題と対決する姿勢となってきた。
- ② 職員は自らの態度や感情がもつ傾向を自覚した上で、受容的な態度で接し、利用者の性格、癖、精神的、肉体的状況を把握し、「こうすればもっと利用者の生活が豊かになる」という姿勢で業務に取り組みそしてそのことの大切さを気付いてくれた。
- ③ 人材育成は、施設運営の基幹であり継続のエネルギーであるので、OJT、OFF-JT、SDS を積極的に進め、職員一人ひとりが自分の役割を認識し、介護力、相談援助技術を高めてくれた。特にOJTを通じて、徐々ではあるが、主体性を持った積極的に取り組む職員となってきた。

(3) 経営意識の高揚と経費の効果的執行を行う。

- ① 施設経営を念頭に置き、収入を伸ばしながら、コスト率を引き下げることに取り組み、介護保険収入では前年度に比べ、9,599,804円の増収とし、事業活動資金収支差額においては、9,342,745円の増益とした。この結果、積立資産施設整備積立金とし、12,000千円を計上した。
- ② 人件費の管理こそが、デイサービスが生き延びるかどうかの重要なポイントであるが、縮小均衡とならず、効率的な職員配置をし、人件比率を64.2%とした。
- ③ 毎日の収支状況は、利用人数で把握し、減収を最小限に抑えるため、ショートステイ等事前の把握をして空席については、追加希望者に利用を促し、又、月毎の収支状況と予算状況を把握し、最大限のサービス提供を行った。

(4) 事業運営の重要課題と安定した利用者を確保する。

- ① 利用者を確保するためには、職員が定着し、利用者のニーズをとらえ、そのニーズに最適なかたちで応えなければならない。GLは、働きやすい職場となるため職員とのコミュニケーションを大切にし、粘り強く、根気よく育成に取り組んだ。
- ② 利用者、ご家族、居宅介護支援事業者からの要望に応え、平成31年4月にサービス提供時間を新たに、7時間以上8時間未満を開設し、新たな利用者の確保にも取り組み、新規利用者を42名獲得した。1日平均の稼働率は、30年度と比べ1日平均で、2.6名増加し、34.8名となった。

2. 利用状況報告書

通所介護事業所

月	稼働日数(日)	利用実人数(人)	利用者延人数(人)	1日平均人数(人)	入浴者数(人)	新規利用者数(人)
4	26	65	737	28.3	681	2
5	27	67	799	30.0	750	3
6	25	65	720	28.8	670	1
7	27	65	800	29.6	749	3
8	27	67	785	29.0	745	0
9	25	66	751	30.0	716	3
10	26	69	775	29.8	735	2
11	26	67	759	29.2	711	4
12	26	70	801	30.8	738	3
1	25	74	809	32.4	747	3
2	25	73	766	30.6	711	2
3	26	71	794	30.5	743	2
合計	311	819	9296	—	8696	28
月平均	25.9	68.3	774.7	29.9	724.7	2.3

介護予防・日常生活支援総合事業第1号通所事業事業所

月	稼働日数(日)	利用実人数(人)	利用者延人数(人)	1日平均人数(人)	新規利用者数(人)
4	26	21	129	5.0	1
5	27	21	129	4.8	2
6	25	20	117	4.7	0
7	27	21	145	5.4	2
8	27	20	124	4.6	0
9	25	21	120	4.8	0
10	26	22	123	4.7	3
11	26	21	126	4.8	1
12	26	22	129	5.0	2
1	25	21	110	4.4	2
2	25	23	122	4.9	1
3	26	24	136	5.2	0
合計	311	257	1510	—	14
月平均	25.9	21.4	125.8	4.9	1.2

定員45名に対する充足率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年平均
平均数	33.3	34.4	33.5	35.0	33.7	34.8	34.5	34.0	35.8	36.8	35.5	35.8	34.7
充足率	74.0	76.4	74.4	77.8	74.8	77.4	76.8	75.6	79.5	81.7	78.9	79.5	77.2